CURRICULUM GUIDE 2017

宮城大学
食産業学群
履修ガイド 2017

平成 29 年度

この履修ガイドは卒業まで使用するものです

はじめに

この「履修ガイド」には、宮城大学に入学された皆さんにとって、大学での４年間の学びが充実したものとなるよう学修計画を立て、実現していくために必要となる基本的な情報がまとめられています。

大学では、高校までとは違い、入学した当初から自分自身で考え、行動することが求められます。高校ではあらかじめ時間割のほとんどが決められており、自分自身で考えて授業科目を選択することはあまりなかったかもしれませんが、大学では、多くの授業科目の中から、自分の勉強したい科目を調べ、登録するといった作業を自分の判断で責任を持って行わなければなりません。この一連の履修に関係する要件や各種手続きのほか、入学から卒業までの基本的な流れ、基盤教育・専門教育課程の特徴等を「履修ガイド」で説明しています。

また、宮城大学では、学群・学類・コースごとに「進級・卒業に必要な単位数」を定めています。この条件を満たし、順調に進級・卒業できるよう、この「履修ガイド」を熟読した上で、各授業科目の内容が記載された「シラバス」を活用して、卒業後の進路も見すえ、納得のいく学修計画を立ててください。

「履修ガイド」は、入学時だけではなく、毎年の履修登録のとき、学修計画や進路で迷ったり、分からないことに出会ったとき、読み返してみることで、解決の方法や糸口が見つかるような「便利帳」の役割も果たしていますので、卒業まで大切に手元に置いて活用してください。

宮城大学の建学の理念

　ホスピタリティ精神とアメニティ感覚に溢れ、高度な専門性と実践的能力を身につけた、地域の発展をリードし、世界に貢献できる人材を育成するとともに、学術・文化の向上と豊かで活力のある地域社会の形成に寄与することを建学の理念に掲げています。

宮城大学の目的

　地域社会及び他の大学、研究機関等との自由かつ緊密な交流及び連携のもとに、看護、事業構想及び食産業に関する教育研究を行うことにより、学術文化の振興に資するとともに、創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成し、もって地域の産業及び社会の発展に寄与することを目的としています。

宮城大学各学群の教育研究上の目的

看護学群	生命の尊厳を基盤とする豊かな人間力を備えて、科学的思考力とマネジメント能力をもち、ヒューマンケアを中核とした創造的な看護を展開し、地域社会及び多分野・異文化の人々と協働して学際的及び国際的に活躍できる人材を育成すること。
事業構想学群	現代社会の諸課題を多角的・グローバルな視点で論理的にとらえ、その課題解決に向けた事業を実行可能かつ持続可能なものとして構築する能力を身につけるとともに、地域資源の活用や新たな価値創造を志向し、産業、行政及び社会の各分野で先導的役割を担うことができる人材を育成すること。
食産業学群	食資源開発及び食材生産から食品製造・流通・消費に至るまでのフードシステムについて幅広い科学知識と技術を持ち、食産業全体を理解し、東北地域から世界まであらゆるレベルで食の未来を開拓できる意欲と能力を有する人材を育成すること。

目次

Ⅰ 宮城大学カリキュラムの全体像 07
1 宮城大学の教育目標 07
2 宮城大学の教育基本方針 07
3 学群・学類について 07

Ⅱ 総論 09
1 入学から卒業までの基本的な流れ 09
2 学群とキャンパスについて 09
3 学年及び休業日と、学期、時間割について 09
(1)学年、学期及び休業日 09
(2)時間割 09
4 学籍と在学期間について 10
(1)学籍の異動(学生便覧から) 10
(2)修業年限及び休学期間の限度、在学年限 10
5 単位について 11
(1)単位の計算基準 11
(2)卒業要件単位数 11
(3)単位認定について(他学群・他学類履修科目等) 11
6 履修登録について 12
7 授業について 12
(1)授業科目 12
(2)シラバス(授業計画書) 12
(3)授業への欠席及び遅刻 12
(4)休講 12
(5)補講 12
8 成績の評価方法について 13
(1)試験 13
(2)レポート・制作物等の提出方法 13
(3)追試験 13
(4)再試験 13
(5)成績発表について 14
(6)GPA制度 14
(7)学生による授業評価について 14
9 進級について 15
10 学類の決定・履修コースの選択について 15
(1)学類の決定 15
(2)履修コースの選択 15
11 転学群・転学類について 15
(1)転学群・転学類について 15
(2)コース変更について 15
12 卒業認定・学位授与について 16
13 学修支援について 16
(1)教員へ相談したいとき 16
(2)職員へ相談したいとき 16
(3)学生相談室、保健室について 16
14 その他 17
(1)大学からの連絡 17
(2)気象状況や自然災害等による休講・試験の延期 17
(3)学生保険について 17
(4)経済支援について 17

Ⅲ 履修登録 19
1 履修登録の重要性 19
2 履修登録の手順 19
(1)「履修登録の手引き」確認 19
(2)時間割表の確認 19
(3)シラバスの確認 19
(4)履修登録期間 19
(5)履修登録修正 19
(6)学生時間割提出期間 19
(7)履修登録取消期間 20
(8)履修登録科目の確定 20
3 履修登録上の留意点 20
(1)履修可能な科目 20
(2)必修科目の履修 20
(3)単位修得済み科目の履修登録の禁止 20
(4)履修クラス等の指定 20
(5)集中講義科目 20
4 その他 20

Ⅳ 基盤教育 21
基盤教育の教育目標 22
1 フレッシュマンコア 23
(1)フレッシュマンコアとは 23
(2)フレッシュマンコアの基幹科目 23
2 学びの基盤となる４つの分野 24
(1)グローバルコミュニケーション分野 24
(2)ソーシャルサイエンス分野 24
(3)ナチュラルサイエンス分野 24
(4)アートサイエンス分野 24
3 留学生対象科目 25
4 教育課程の一覧 25

Ⅴ 全学共通科目 ほか 27
1 コミュニティ・プランナープログラムについて 27
(1)コミュニティ・プランナープログラムとは 27
(2)単位 27
(3)プログラムの考え方および特色 28
(4)履修方法および履修手続等 28
2 学外研修・グローバルインターンシップ 30
(1)学外研修・グローバルインターンシップとは 30
(2)科目の履修方法 30
3 学都仙台単位互換ネットワーク単位互換制度 30
(1)学都仙台単位互換ネットワーク単位互換制度とは 30
(2)単位互換制度の申請方法 31

Ⅵ 食産業学群 33
1 食産業学群について 33
(1)食資源開発学類のカリキュラムの特徴 33
(2)フードマネジメント学類のカリキュラムの特徴 34
(3)食産業学群、食資源開発学類・フードマネジメント学類の教育目標 35
(4)食産業学群、食資源開発学類・フードマネジメント学類のカリキュラムマップ 36
(5)食資源開発学類の科目配当表 38
(6)フードマネジメント学類の科目配当表 40
2 関連資格 42

Ⅰ. 宮城大学カリキュラムの全体像

1 宮城大学の教育目標

宮城大学の建学の理念、目的を踏まえ、主体性を持って協働的に行動し、社会の持続的な発展に貢献できる人材の育成を教育目標として定めています。

2 宮城大学の教育基本方針（ディプロマポリシーとカリキュラムポリシー）

（1）ディプロマポリシーとは

宮城大学の教育目標に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定めた基本的な方針を「ディプロマポリシー」といいます。これは、学生の学修成果の目標ともなるものです。

（2）カリキュラムポリシーとは

「ディプロマポリシー」の達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定めた基本的な方針を「カリキュラムポリシー」といいます。

※基盤教育・各学群・学類のディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは、各章の教育目標を参照してください。

3 学群・学類について

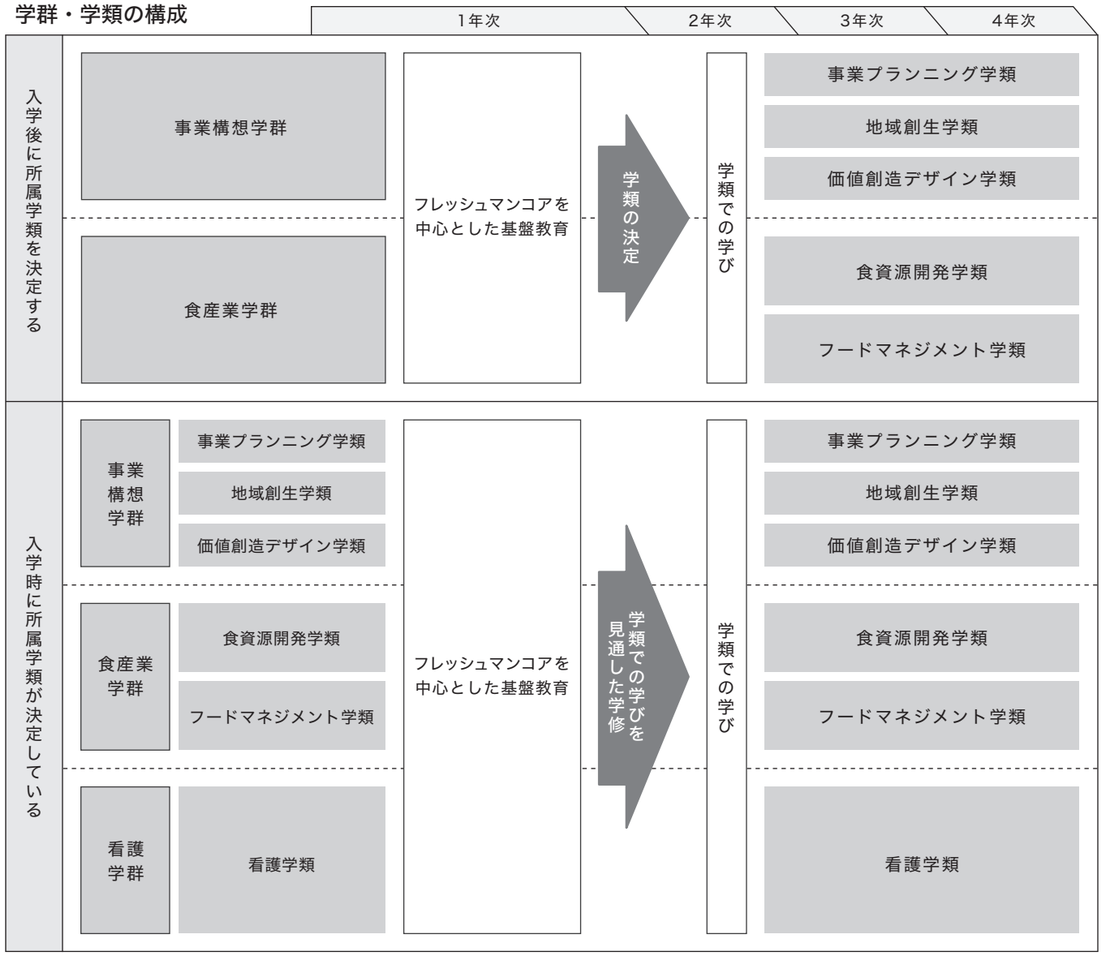
宮城大学は、学群・学類（3 学群・6 学類）により構成されています。

学群	学類
看護学群	看護学類
事業構想学群	事業プランニング学類
	地域創生学類
	価値創造デザイン学類
食産業学群	食資源開発学類
	フードマネジメント学類

看護学群では、入学時に所属する学類が決まっており、2 年次からの学びを見通し、1 年次から学修に取り組むことができます。また、事業構想学群及び食産業学群（一部入学生を除く）では、2 年次に所属する学類が決定されます（AO 入試での入学生を除く）。入学後 1 年間をかけてマッチングを行い、自分が進む学類を決定します。

※基盤教育・各学群・学類のカリキュラムの詳細は、各章のカリキュラムの特徴を参照してください。

学群・学類の構成



II. 総論

ここでは、宮城大学における教育課程の修業に係る共通事項を説明します。これらの内容の詳細は、宮城大学学則、宮城大学履修規程及び宮城大学学位規程に記載されています。

1 入学から卒業までの基本的な流れ

入学から卒業・学位授与までの基本的な流れは下図のとおりです。それぞれの段階で必要な手続きや申請がありますので注意してください。

入学 ▶ 履修登録 ▶ 授業・授業評価 ▶ 試験 ▶ 成績評価・単位修得 ▶ 進級・学類・コース選択 ▶ 卒業研究 ▶ 卒業・学位授与

2 学群とキャンパスについて

宮城大学では、看護学群・事業構想学群・食産業学群および各研究科を設置しています。それぞれの学群は、以下のキャンパスに所在しています。

	宮城大学大和キャンパス	宮城大学太白キャンパス
設置学群	看護学群・事業構想学群及び研究科	食産業学群及び研究科
住所	〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑１番地１	〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立 2-2-1
電話	022-377-8200	022-245-2211

3 学年及び休業日と、学期、時間割について（学則第６条、７条、８条）

(1) 学年、学期及び休業日

本学の教育課程は、以下の日程で運用しています。また、学年を前期と後期にわけて単位認定を行う「前後期制」を採用しています。

	期間
学年	４月１日に始まり、翌年３月31日に終わります。
前期	４月１日から９月30日まで
後期	10月１日から３月31日まで
休業日	土・日・祝日・開学記念日５月１日
春季休業日	４月１日～４月７日
夏季休業日	８月１日～９月30日
冬季休業日	12月25日～１月７日

※春季・夏季・冬季休業の日程は年度ごとに変更になる場合があります。当該年度の長期休業の日程は、学内ウェブサイトの「学年暦」 を確認してください。定期試験は、前期・後期末に期間を定めて実施します。

(2) 時間割

授業は、前期・後期の期間内のうち、月曜日から金曜日まで、下表の時間割に沿って行われます。

時限	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
時刻	8：50 ～ 10：20	10：30 ～ 12：00	12：50 ～ 14：20	14：30 ～ 16：00	16：10 ～ 17：40

また、通常の時間割以外に、以下の開講形態があります。

①集中講義：夏季休業等の休業日に、集中的に授業を開講するものです。
②隔週開講：１週おきに開講するものです。
③指定日開講：特定の日時に開講するものです。

その他、学外の実習等、通常の時間割以外の時間帯に授業を行う場合があります。

4 学籍と在学期間について（学則第 18 条、19 条、21 条、23 条、24 条、26 条）

学籍とは、本学に所属する学生であることを示す籍をいいます。

（1）学籍の異動

本学に入学してから卒業するまでの間、通常通り修業する状況を「在学」として取り扱います。学生の申請や大学の決定により「休学」「転学」「退学」「除籍」として学籍を異動する場合があります。これら学籍の異動に必要な手続きは、学内ウェブサイトを参照してください。

また、学籍の異動は、進級要件や卒業要件、授業料免除申請や奨学金の付与等に影響することがあります。

（2）修業年限及び休学期間の限度、在学年限

本学では、必要な修業の期間や、在学できる期間の限度を以下のとおり定めています。

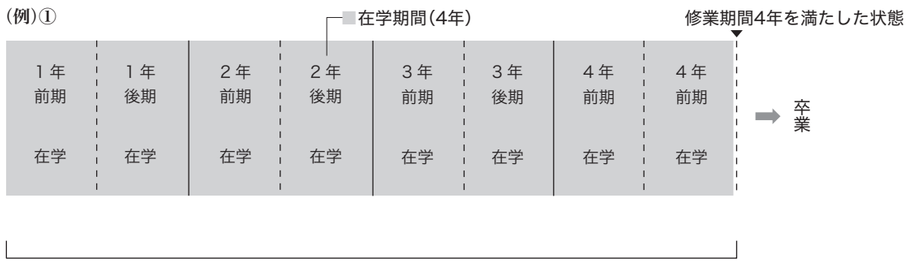
- 修業期間：修業した期間を「修業期間」といいます。
- 修業年限：卒業までに修業すべき年数を定めています。
- 在学期間：在学した期間を「在学期間」といいます。
- 在学年限：在学できる年数です。在学年限を超えて在学することはできません。
- 休学期間：休学した期間を「休学期間」といいます。休学期間は、修業期間や在学期間には含みません。

修業年限	在学年限	休学期間の限度
4 年	8 年	4 年

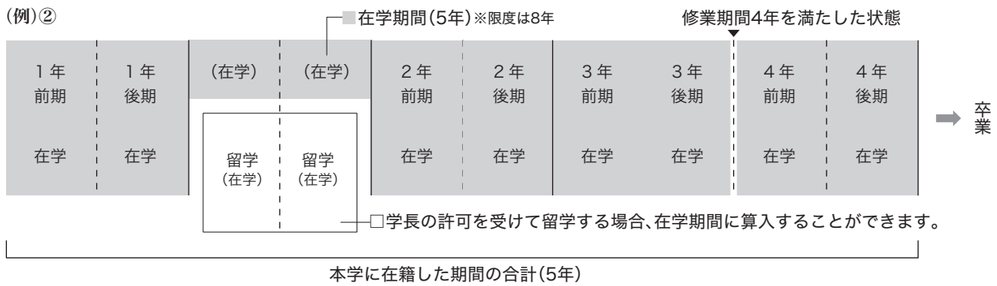
※引き続き 1 年を超えて休学することはできません。ただし、特別の理由がある場合は、学長の許可を得て休学期間を 2 年まで延長することができます。

※編入学・転入学・再入学・転学を許可された学生の在学期間及び在学年限については、関係規程により個々に定められます。

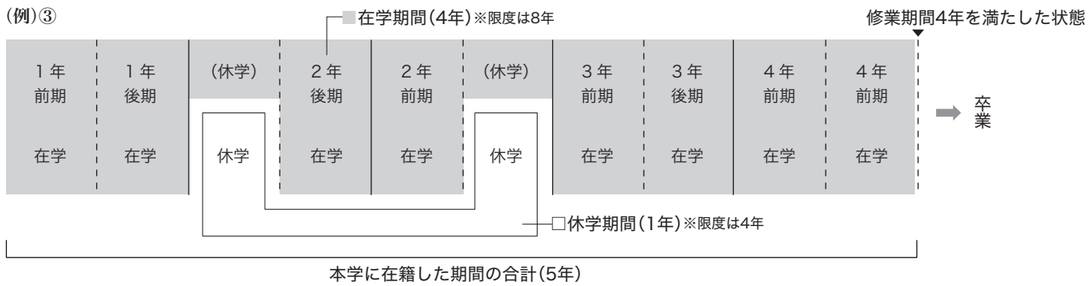
（例）①



（例）②



（例）③



5 単位について（学則第 35 条、36 条、37 条、38 条、39 条、40 条、41 条）

単位とは、授業科目を修得したことを示す時間数です。学群ごとに卒業に必要な単位数が定められており、個々の科目について所定の時間を履修し、試験その他の方法により合格と判定されたときに、はじめて修得できます。また、授業の開講形態（講義、演習、実習等）、開講時間数等により修得できる単位数が定められています。

（1）単位の計算基準

授業科目「1 単位」は、「教室内における授業時間」と「事前・事後学修時間」とを併せて 45 時間の学修時間により構成されることを基準としています。また、講義、演習、実習等の授業の方法に応じ、概ね以下の授業時間及び単位数としています。

講義	1 時限（90 分）の授業 15 回と事前・事後学修で 2 単位
演習	1 時限（90 分）の授業 15 回と事前・事後学修で 1 単位 (2 時限構成の場合 2 単位)
実験・実習・実技	2 時限（180 分）又は 3 時限（270 分）の授業 15 回で 1 単位とします。 実験・実習と講義の併用は、2 時限分の授業 15 回と事前・事後学習で 2 単位とします。

（2）卒業要件単位数

卒業するためには、前述の修業年限を満たした上で、各学群で定める所定の卒業要件単位数を修得しなければなりません。必要単位数は下表のとおりです。

	看護学群	事業構想学群	食産業学群
卒業要件単位数	126単位	125単位	127単位

（3）単位認定について（他学群・他学類履修科目等）

他学群・他学類、他の大学又は短期大学における授業科目の履修や、大学以外の教育施設における学修、入学前の既修得単位の認定について下表のとおり定めています。これらの単位認定については、申請を行う必要がありますので、事務部窓口にて案内を受けてください。

項目	要件	単位認定できる単位数
①他学群･他学類の授業科目の履修	学長の承認	60単位を超えない範囲とする。
②他の大学又は短期大学における授業科目の履修	学長が教育上有益と認めるときは、単位互換協定等に基づき、本学における授業科目に履修により修得したものとみなすことができる。	①と合わせて、60 単位を超えないもの
③大学以外の教育施設（学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科）における学修、その他大学設置基準第 29 条 1 項の規定により文部科学大臣が別に定める学修	学長が教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修とみなし、単位を修得することができる。	①、②とあわせて、60 単位を超えないもの
④入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（既修得単位）	学長が教育上有益と認めるときは、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を修得することができる。	編入学又は転入学の場合を除き、①、②、③とあわせて 60 単位を超えないもの。

上記単位認定された科目のうち、卒業要件単位数への算入については、「宮城大学他学群・他学類履修及び他大学等履修に関する実施要綱」に定めていますので、履修方法とあわせて学内ウェブサイトで確認してください。



6 履修登録について（履修規程第３条、第４条、第５条）

授業に出席し、所定の単位を修得するためには、履修登録が必要です。詳細は次章に記載しています。本学では、履修登録可能な単位数の上限を定めています。

	履修登録単位数の上限
1年次	年間49単位まで（基盤教育科目から35単位まで）
2～4年次	各年次における履修登録単位数の上限は、年間49単位まで

※ただし、以下の科目の単位数は、履修登録単位数の上限には含まれません。
・各学群の卒業要件に含まない科目
・春季休業日、夏季休業日及び冬季休業日に開講される集中講義等の科目
・他大学又は短期大学から履修を許可された科目のうち、教授会が特に必要と認めた場合

7 授業について

（1）授業科目

授業科目には、講義、演習、実験・実習、実技があり、必修科目、選択必修科目、選択科目に大別されます。卒業要件として、これらそれぞれの科目の修得単位数をそれぞれ定めています。

必修科目	学群、学類、コースにおいて、その教育目的を達成するために、修得が義務付けられている科目です。修得が進級要件に含まれる場合があります。
選択科目	指定された科目群の中から、学生が一定数の科目を選択して修得することが義務づけられている科目です。修得が進級要件に含まれる場合があります。
自由選択科目	学生の自由選択により履修することができる科目です。

（2）シラバス（授業計画書）

授業科目毎の授業内容を明示した授業計画等を「シラバス（syllabus）」といいます。
・シラバスには、授業科目の授業概要、授業計画、評価方法などが簡潔に説明されています。
・学内ウェブサイトの「学務管理システム」で参照することができます。
・シラバスは、履修登録の際や、履修の過程において、授業の目的や、全体の流れを確認することに活用してください。

（3）授業への欠席及び遅刻

単位の修得には、授業への出席が必要です。
・一定の出席時間に満たない場合は、試験の受験資格を喪失します。
・欠席届や忌引の取扱いはありません。欠席及び遅刻に対する取扱いは担当教員が判断します。

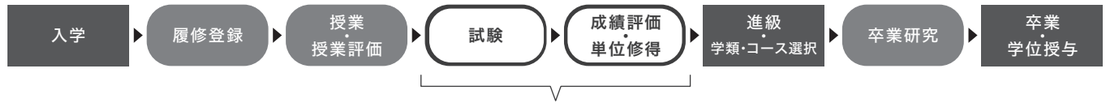
（4）休講

担当教員の都合や気象条件等により授業が休止になることを休講といいます。休講は、下表の方法で連絡します。

大和キャンパス	事務部前掲示板等に掲載、学務管理システムに掲載
太白キャンパス	講義棟１階の掲示板等に掲載、学務管理システムに掲載

（5）補講

補講は、休講等により授業時間が不足し、所定の内容が修得しきれないと教員が判断した場合に行われます。補講の有無は、授業中にアナウンスされるほか、休講の連絡方法と同様の方法で連絡します。



8 成績の評価方法について（履修規程第７条、第８条、第９条、第10条、第11条）

授業科目における成績は、シラバスで示された授業の到達目標に対する学生の学習到達度によって下表のように評価されます。秀、優、良及び可を合格として単位が付与されます。学修到達度は、その授業の開講時期の末に期間を定めて行う試験によって評価されます。

評価	評点	学修到達度との関係
秀	90点以上	学修到達度が特に優秀な水準で到達目標に達している。
優	80点以上90点未満	学修到達度が優秀な水準で到達目標に達している。
良	70点以上80点未満	学修到達度が良好な水準で到達目標に達している。
可	60点以上70点未満	学修到達度が到達目標に達している。
不可	60点未満	学修到達度が到達目標に達していない。

（1）試験

試験は、筆記試験、口述試験、実技試験又は実験、実習、課題レポートにより行います。受験の際は、学生証を机上に提示することで本人確認を行いますので、学生証を必ず持参してください。下表の内容に該当する場合は、試験を受けることができませんので注意してください。

①	履修登録をしていない学生。
②	出席時間が5分の4に満たない学生。
③	試験時刻に20分を超えて遅参した学生。

試験の日程は、試験期間開始前に、大和キャンパスにおいては事務部前掲示板で、太白キャンパスにおいては講義棟１階の掲示板でお知らせします。

（2）レポート・制作物等の提出方法

レポート・制作物等を提出する際は、次の点に注意してください。

提出方法	担当教員により、提出場所や方法の指示がなされますので、指示に従ってください。 また、提出期限を必ず守って、所定の場所に提出してください。 下記のレポートボックスへ提出が指示される場合があります。	
	［大和キャンパスレポートボックス］ ※本部棟3階及び4階、研究ラウンジ受付に設置	［太白キャンパスレポートボックス］ ※管理棟1階事務部窓口付近に設置
	※誤って他の科目のレポートボックスに投函されたレポートは、提出期限後に未提出扱いとして本人に返却します。	
記載事項	①所属学群・学類・コース、②学籍番号、③氏名、④授業科目名、⑤担当教員名を記載してください。 その他担当教員から指示された事項があれば記入してください。 氏名等が未記入の場合は、評価の対象となりませんので注意してください。	

（3）追試験

所定の試験に欠席した学生に対する追試験は実施しません。ただし、病気その他特別の理由によりやむを得ず受験できなかった学生に対しては、本人からの願い出により追試験を行うことがあります。

追試験の申請は、試験終了後 1 週間以内に、所定の様式により申請を行い、担当教員の承認を得る必要があります。様式や添付書類等は、学内ウェブサイトを参照してください。

（4）再試験

試験を受験して不合格になった学生に対する再試験も実施しません。ただし、試験終了後に教授会等が必要と認めた場合は実施されることがあります。なお、再試験の成績評価は可が上限となります。

入学 ▶ 履修登録 ▶ 授業・授業評価 ▶ 試験 ▶ 成績評価・単位修得 ▶ 進級・学類・コース選択 ▶ 卒業研究 ▶ 卒業・学位授与

(5) 成績発表について

成績発表は、前期は９月末、後期は３月末に学内ウェブサイトの「学務管理システム」を通じて行います。履修した科目については、「学務管理システム」の「成績情報」で確認ができます。

※「不可」の評価となった科目に限り、今後の学修に資するため、成績発表日を含む 10 日間のみ、成績質問を受け付けます。
成績質問は、学内ウェブサイトから所定の様式を取得し、提出してください。

(6) GPA制度

本学では、GPA制度を採用しています。GPA（Grade Point Average）とは、各授業科目の 5 段階の成績評価に対応して４～０のグレードポイントを付与して算出する１単位あたりのグレードポイント平均値です。

GPは下表の数値としています。

成績	秀	優	良	可	不可
GP	4	3	2	1	0

・学修状況および成果を示す指標として「学期GPA」「年度GPA」「通算GPA」の 3 種類を設定しています。計算式は以下としており、小数点第３位以下を切り捨てて表記しています。

①学期GPAの計算式

$$学期GPA = \frac{（その学期に評価を受けた科目で得たGP\times その科目の単位数）の合計}{その学期に評価を受けた科目の単位数の合計}$$

②年度GPAの計算式

$$年度GPA = \frac{（その年度に評価を受けた科目で得たGP\times その科目の単位数）の合計}{その年度に評価を受けた科目の単位数の合計}$$

③通算GPAの計算式

$$通算GPA = \frac{（〈各学期に評価を受けた科目で得たGP\times その科目の単位数〉の合計）の総和}{（各学期に評価を受けた科目の単位数の合計）の総和}$$

・GPA は、卒業要件となる授業科目に含まれるものを対象科目としています。以下の科目はGPA対象科目に含まれません。
ア）編入学または転入学した際の単位認定科目
イ）本学入学前に修得した単位認定科目
ウ）他大学等との単位互換等で修得した科目

・履修した科目を履修放棄すると、科目の成績は「不可」となり通算GPA に算入されます。履修を取り消す場合は、必ず履修取り消し期間中に所定の手続きを行ってください。

(7) 学生による授業評価について

本学では，授業をより充実したものに改善することを目的に、学生による授業評価アンケートを実施しています。学期末に学内ウェブサイト等で案内されますので、履修した科目について回答してください。

入学 ▶ 履修登録 ▶ 授業・授業評価 ▶ 試験 ▶ 成績評価・単位修得 ▶ 進級・学類・コース選択 ▶ 卒業研究 ▶ 卒業・学位授与

9 進級について（履修規程第 12 条）

	看護学群	事業構想学群・食産業学群
全年次共通	配当年次において未修得の必修単位が通算 6 単位以下であること。 （複数の年次で配当されている科目は、上級年次が配当年次）	
2 年次進級要件	卒業要件単位数のうち 30 単位以上を修得していること。	
3 年次進級要件	卒業要件単位数のうち64単位以上を修得していること。 1･2年次に開講されている必修の専門教育科目の単位をすべて修得していること。	卒業要件単位数のうち64単位以上を修得していること。
4 年次進級要件	卒業要件単位数のうち96単位以上を修得していること。3年次に開講されている実習（母性、小児、成人、老年、精神、地域、在宅の7つの領域）の単位をすべて修得していること。	卒業要件単位数のうち96単位以上を修得していること。 ※事業構想学群は、加えて3年次に開講されている卒業研究科目の単位を修得していること。

10 学類の決定・履修コースの選択について（履修規程第 13 条、第 14 条）

(1) 学類の決定

入学時に学類が決定していない学生は、１年次末までに所定の方法により所属する学類が決定されます。学類毎に定員を設定していますので、必ずしも希望する学類の所属できるとは限りません。学類の決定方法等については、ガイダンス等で案内されます。

(2) 履修コースの選択

事業構想学群と食産業学群では、学類毎に専門性の高い科目を学べるよう履修コースを設けていますので、履修コースの届出時期までに希望するコースの届出を行ってください。

学群	学類	履修コース	届出時期
看護学群	看護学類	―	―
事業構想学群	事業プランニング学類	事業戦略コース 事業管理コース	2年次の7月末日
	地域創生学類	地域政策コース 地域科学コース	
	価値創造デザイン学類	感性情報デザインコース 生活環境デザインコース	
食産業学群	食資源開発学類	動物生産科学コース 植物生産科学コース	2年次の1月末日
	フードマネジメント学類	フードビジネスコース フードサイエンスコース	

11 転学群・転学類について

(1) 転学群・転学類について（学則第 22 条、転学群及び転学類に関する規程）

諸事情により転学群・転学類を希望する場合、後述するクラス担当教員等に相談してください。転学群及び転学類の選考は、原則として欠員のある場合に限り行います。また、新たな転学類等を受け入れるかどうかは、教育上の支障の有無を勘案した上で判断するので、毎年度必ず選考が行われるとは限りません。詳細は、学内ウェブサイトにある「宮城大学転学群及び転学類に関する規程」で確認してください。

(2) コース変更について（履修規程第 14 条）

選択した履修コースの変更を希望する場合は、所属する学群の学群長の許可が必要となります。手続き方法や時期等については、後述するクラス担当教員等に確認してください。

入学 ▶ 履修登録 ▶ 授業・授業評価 ▶ 試験 ▶ 成績評価・単位修得 ▶ 進級・学類・コース選択 ▶ 卒業研究 ▶ 卒業・学位授与

12 卒業認定・学位授与について（学則 41 条）

修業年限を満たし、各学群で定める卒業要件を満たした学生は、卒業が認定され、学位が授与されます。各学類を修了した者に授与される学位は下表のとおりです。

	学類	学位
看護学群	看護学類	学士（看護学）
事業構想学群	事業プランニング学類	学士（事業プランニング学）
	地域創生学類	学士（地域創生学）
	価値創造デザイン学類	学士（価値創造デザイン学）
食産業学群	食資源開発学類及びフードマネジメント学類	学士（食産業学）

13 学修支援について

学修や進路上、学生生活の悩みや不安などがある場合、所属するクラスを担当する教職員が窓口となって相談を受け付けます。

また、学生がクラス担当教員以外の教員の研究室を訪れ、授業内容等について気軽に相談できる時間として「オフィスアワー」を設けています。詳細については学内ウェブサイトの「学生便覧」を参照してください。

なお、非常勤講師への学修上の相談や質問は、非常勤講師の来学時に行ってください。

（1）教員へ相談したいとき

オフィスアワーの対応時間等については学内ウェブサイトに掲載されています。ただし、業務上、各教員の都合がつかない場合もありますので、各教員へメール等で事前連絡の上、相談することを推奨しています。

（2）職員へ相談したいとき

事務部の窓口が利用できる時間帯は、平日８：３０～１７：５０です。事務職員への相談や書類等の提出は、事務部窓口が利用できる時間帯で行ってください。

（3）学生相談室、保健室について

・保健室：大学構内でのケガや体調不良については、保健室で対応することが可能です。
・学生相談室：カウンセラーが常駐し、対人関係、こころの健康、生活全般、学業・進路など、学生生活における困りごとをはじめ、様々な相談ができる場所です。費用は無料で、プライバシーは厳守されます。
・利用時間はキャンパス毎に異なりますので、学内ウェブサイトの「学生便覧」で確認してください。

14 その他

（1）大学からの連絡

学内行事、集中講義などで連絡事項が発生した場合や、学生生活に関する重要なお知らせは、学内メールで周知する場合がありますので、学内メールを確認してください。

また、学内メールの他、大和キャンパスにおいては事務部前の掲示板、太白キャンパスにおいては講義棟１階の掲示版、学務管理システム（https://portal.myu.ac.jp/portal/login）等を通じて連絡を行うことがあります。登下校時には、掲示板等を確認してください。

（2）気象状況や自然災害等による休講・試験の延期

気象状況や自然災害等により学生及び教職員の通学・通勤が困難な場合や困難になると想定される場合は、安全確保のため休講及び試験の延期措置を行います。

時間帯	気象状況	休校
午前7時の時点	仙台市又は大和町に大雨・洪水・暴風・大雪・暴風雪のいずれかの「警報」が発令され、スチューデントサービスセンター長及び副センター長により休講及び試験の延期措置が必要と判断した場合。（JR在来線〈東北本線・常磐線・仙山線・仙石線〉の仙台駅を含む区間の運休又は運転見合わせや仙台市内小中高校の休校を目安として判断します。）	午前の授業（1・2限）『休講』
午前10時の時点		午後の授業（3～5限）『休講』
※実習、インターンシップ等学外で実施される科目の実施有無については、当該基準に準じ各担当教員（看護学実習の場合は学部長又は実習ワーキンググループ長）の判断によります。		

上記のほか、学長及びスチューデントサービスセンター長が学生の安全確保のため必要があると判断した場合学外ウェブサイト、学内掲示やメールなどによって周知されます。

（3）学生保険について

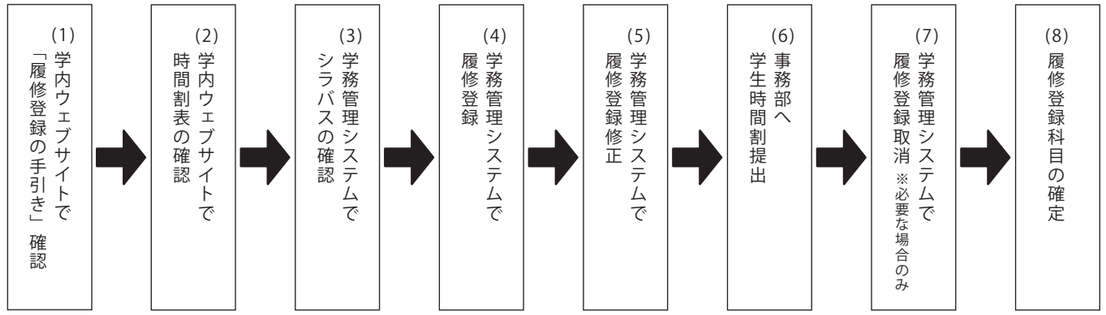
学内外で教育研究活動中、実習中、通学途中、サークル活動中などに発生した傷害事故（自分自身のケガ）・賠償事故（他人にケガをさせたり、他人の物を壊したりした場合の補償）に備えるため、入学時に学生保険に加入しています。詳細は、学内ウェブサイトの「学生便覧」に記載していますので、参照してください。

（4）経済支援について

授業料の納付や、減免等申請、奨学金に係るお知らせなどは、学内ウェブサイトの「学生便覧」に記載していますので参照してください。

Ⅲ. 履修登録

履修登録とは、履修しようとする授業科目について履修（授業を受ける）の意思表示をすることであり、学修のスタート地点になります。履修登録の流れは以下のとおりです。



1 履修登録の重要性

授業を受け、単位認定を修得するには履修登録が必要です。履修登録しなければ試験を受けられません。将来をしっかり見据え、履修計画を立て、確実に卒業要件を満たすように履修登録を行ってください。

2 履修登録の手順

本学では、学内ウェブサイトの学務管理システムを利用して各自が履修登録を行います。学務管理システムの入力方法、操作方法等については、別冊「学務管理システム学生向け操作手順書」を参照してください。

なお、他学群・他学類科目など一部の科目については学務管理システムを使用せず、所定の用紙で登録を行います。用紙による登録が必要な科目は別途掲示等で周知します。

(1)「履修登録の手引き」確認

学内ウェブサイトに「履修登録の手引き」が掲載されます。履修登録について詳しい日時や登録手続き方法など重要な情報が記載されていますので、必ず確認してください。

(2) 時間割表の確認

学内ウェブサイトに時間割表が掲載されますので確認してください。

(3) シラバスの確認

学務管理システムからシラバスを確認することができます。シラバスには当該科目についての情報とともに他の科目との関連も記載されていますので、よく確認して履修計画を立ててください。

(4) 履修登録期間

定められた期間に必ず学務管理システムから履修登録（用紙による登録を除く）してください。学務管理システムによる履修登録の結果は、直ちに学務管理システムの「時間割」で確認できます。

後期に開講する科目についても前期の履修登録期間に履修登録してください。

(5) 履修登録修正

履修登録の内容を修正したい場合は、定められた期間までに学務管理システムから修正してください。後期科目については、後期授業開始後に履修登録修正期間を設けます。

履修登録修正期間の開始前日に未登録者（学務管理システムからの履修登録科目がない者）を掲示します。（この日は科目の新規登録及び修正はできません。）修正した結果は、直ちに学務管理システムの「時間割」で確認できますので、確認の上、必ず印刷しておいてください。

※この期間で履修登録科目追加や変更は締め切られますので十分注意してください。

（6）学生時間割提出期間

履修登録修正期間までに印刷した「時間割」を、看護学群・事業構想学群の学生については大和キャンパスの事務部窓口専用BOXに、食産業学群については太白キャンパスの事務部窓口専用BOXへ提出してください。

（7）履修登録取消期間

定められた期間は履修登録の取消のみ行えます。取消を行わなかった科目は、すべて評価の対象となり、その後は自己都合で受講を取りやめても「不可」として評価され、GPAに反映されます。

（8）履修登録科目の確定

履修登録取消期間の終了後、用紙による履修登録を含めた最終的な履修登録内容（時間割）が学務管理システムで確認できますので、各自履修登録内容を確認してください。

履修登録内容が、各自窓口に提出した「時間割」と異なっている場合や用紙による登録内容が反映されていない場合は、「履修登録の手引き」で定めた期日までに事務部に連絡してください。

3 履修登録上の留意点

履修登録期間中には、キャンパス毎に事務部から様々な連絡事項が伝えられますので、各自所属するキャンパスの所定の掲示板等をこまめにチェックしてください。履修登録および変更・取り消しは定められた期間内に行う必要があります。また、履修登録は、所属学群、学類、コースのカリキュラムに沿って行うほか、以下の点にも留意してください。

（1）履修可能な科目

履修登録ができる科目は、履修規程において、自分の在学する学年及びそれ以下の学年に開講されている科目です。

（2）必修科目の履修

必修科目は、進級・卒業の要件になっていますので履修登録漏れのないよう十分注意してください。

（3）単位修得済み科目の履修登録の禁止

一度履修して単位を修得した科目は、再度履修登録を行うことはできません。

（4）履修クラス等の指定

時間割において、クラスの別や、学類・コースの指定がある科目については、指定された時限に履修登録してください。

（5）集中講義科目

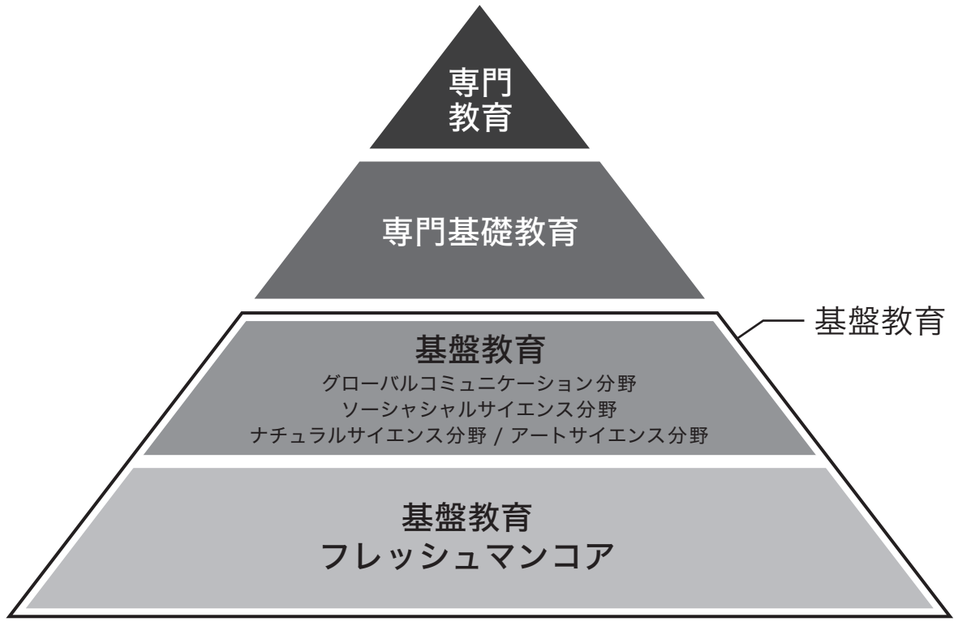
集中講義科目を２科目以上履修する場合は、日程が重複していないかどうかを十分確認した上で履修登録してください。

4 その他

履修登録に当たって不明な点は、各キャンパスの事務部へ問い合わせてください。

Ⅳ. 基盤教育

みなさんは大学生として、４年間をどう過ごしたいでしょうか。４年後、どんなことができるようになっていたいでしょうか。これまでのみなさんの学びの方法は、漢字や言葉の知恵、歴史や文化の知識、英語や数式・化学式、情報活用のスキルなど、教えられて覚えて身に付けることが多かったと思います。大学生としての学びは、教えられたことを覚えるだけでは足りません。大学での学びとは、教えられ吸収したことに対して、みずから考え、課題を見出し、深層まで分析し、解決方法を探りだしていくことです。それには、自ら調査し、考えを深めることのほか、他者と意見を交わし、異なる意見や文化の中に新しい答えを見つけ出したりすることも、必要となってきます。学問に触れ、地域に入り、他者とかかわるなかで、身近な地域に、多様な社会に、広い世界にいる「自分」という個性を知り、その立ち位置を見つけることで、自分の将来に見通しを持つことができると、宮城大学は考えています。



上の図に示すように、基盤教育には、フレッシュマンコア科目群と、グローバルコミュニケーション分野、ソーシャルサイエンス分野、ナチュラルサイエンス分野、アートサイエンス分野の４つの領域があります。基盤教育では、みなさんが学び続けるための 3 つの力を養います。１つ目は、基礎的な言語、数量、情報を扱いこなす方法を身につける力（技法知）。2 つ目は、学んだ知識をどのようにとらえて、どのように考えるかを鍛える力（学問知）。そして３つ目に、自己と他者を知り協働しながら物事を動かす力（実践知）。この３つの力が、「明日の姿を見通す力」につながっていくのです。

宮城大学は、複雑な現代社会をしなやかに、たくましく生きていく手立てとして、人間力を高め、広く深く学び続ける力を身に付けるために、基盤教育を重視します。

基盤教育の教育方針

	ディプロマポリシー	カリキュラムポリシー
		宮城大学共通の教育基盤として、人間力を高めるとともに、広く深く学び続ける力を養成し、将来にわたって明日の姿を見通す力を身につけるための技法知・学問知・実践知を修得するための教育課程を編成する。その中核として、全ての学生が必ず身につけるべき力を養成するための科目群「フレッシュマンコア」を置く。
1 知識・技術	諸領域の学問分野における基本的知識を持ち、各学問分野に特有の考え方を理解し、その考え方を様々な場面で適用できる技術を持つ。	諸領域の学問分野における幅広い分野の知識と技術を教授するため、学問領域を社会・歴史・文化を学ぶ「ソーシャルサイエンス」、人間と自然科学を学ぶ「ナチュラルサイエンス」、芸術を学ぶ「アートサイエンス」に分類し、それぞれの領域における基本的知識・技術を教授するための科目群を構成する。また学びの全体を俯瞰するための科目を置く（看護学群を除く）。 学生が修得した知識・技術を、実践的に応用できる力に結びつける効果的な教育方法を採用する。
2 思考判断力	物事を多面的に考えながら、科学的根拠に基づく論理的な思考と判断ができる。	自らが修得した知識・技術を基盤に、科学的根拠に基づく論理的な思考力・判断力を養成するため、「フレッシュマンコア」の中に少人数演習演習およびフィールドワーク等を置き、実践的な課題に取り組む教育を行う。
3 表現	自分の意見を口頭表現や文章表現によって的確に伝えることができる。	自らの意見や調査分析結果を文章や口頭で表現し、それらを伝えるコミュニケーション力を養成するため、少人数演習科目において、表現技術とコミュニケーションに関する実践的な教育を行う。 グローバルなコミュニケーション力と表現力を養成するために、「グローバルコミュニケーション」科目群を設け、世界共通語としての英語をフレッシュマンコアとして位置づけるとともに、その発展科目を置く。また、中国語、韓国語、ベトナム語の外国語科目として置く。
4 主体性	自己を社会の中に位置づけ、学びを自分自身で意味づけながら自ら学び続けることができる。	自らの将来を見据え、主体的に学ぶ能力を養成するために、「フレッシュマンコア」の中に、大学での主体的な学びを理解するための科目、自らの将来像を考えるためのキャリアデザイン科目を設ける。また、演習科目においても学びの主体性を重視した教育を実施し、自らが学びつつけるための力を養成する。
5 協働性	他者との適切なコミュニケーションのあり方を理解し、他者と協力して学ぶ活動ができる。	他者との協働性とコミュニケーション力を養成するため、「フレッシュマンコア」の中で少人数演習やフィールドワーク等の協働的な活動を取り入れた教育を実施する。

1 フレッシュマンコア

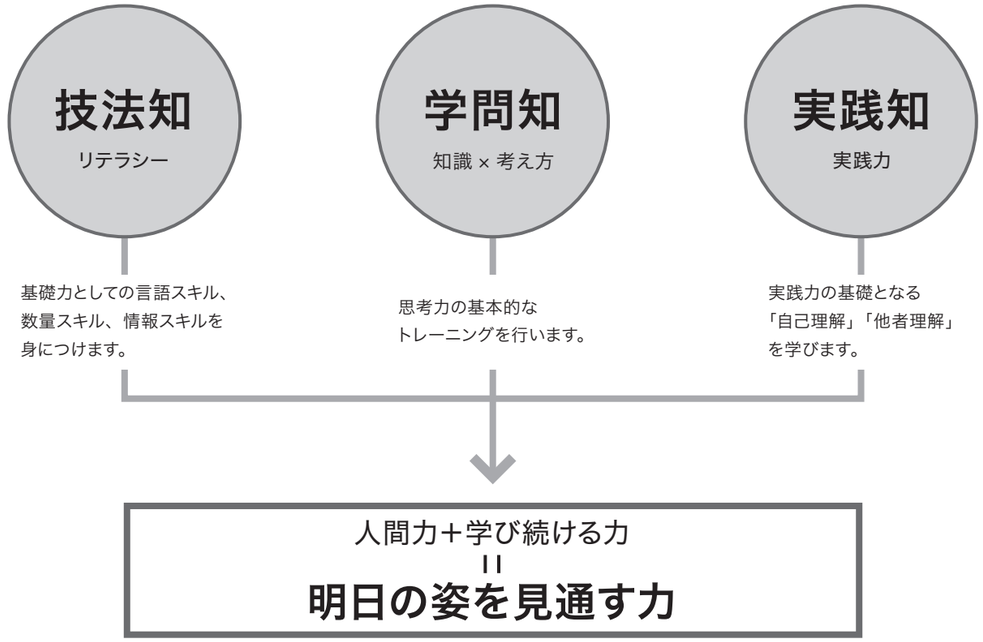
（1）フレッシュマンコア（FC）とは

宮城大学が重視する基盤教育、その軸となる全学共通の必修科目群を「フレッシュマンコア」といいます。

フレッシュマンコアでは、技法知、学問知、実践知を高めるための基本トレーニングを積むことで、専門科目を主体的に学ぶための準備を行います。また、少人数のグループで課題に取り組み、仲間とともに学ぶ中で、多様な意見から集団で答えを導き出す能力を養います。さらに、地域社会・人間社会の一員として自分をどう位置付けるのかを考え、一人ひとりの生涯の学びの基盤を作ります。

〈 フレッシュマンコア 〉

「明日の姿を見通す力」を身につける宮城大学の基盤教育スタンダード



（2）フレッシュマンコアの基幹科目

フレッシュマンコア群の中でも、以下の７科目（看護学群は４科目）をフレッシュマンコア基幹科目と位置づけ、宮城大学生として必要な力を身に付けます。

①スタートアップ・セミナー ……▶ 自らの考えを表現する

２５人のクラス単位で、コミュニケーションやディスカッションのスキルを身につけるとともに、自分の考えをプレゼンテーションやライティングの形で表現する方法を学びます。

②アカデミック・セミナー ……▶ 表現に磨きをかける

スタートアップ・セミナーでの学びを基にして、深い思考力と論理的に説明する方法を学びます。他者と協働してアイディアを出し合いながら、自身の表現に磨きをかける能力を養います。

③社会の中で生きる ……▶ 善き公民としての資質を磨く

社会がどのように構成されるのか、幸福・正義・公正の観点から、自分がどのように社会とかかわり、その一員として責任を担っていくべきかをグループで考えていきます。

④地域フィールドワーク ……▶ 地域を歩き、自らのミッションを問う

地域に貢献できる人材の持つべき素養として、地域（東北、宮城等）の自然・歴史・文化等を学びながら、地域の多様な人々や地域が抱える課題に目を向け、自らの「すべきこと」を考えていきます。

⑤宮城大学の知の体系（事業構想学群・食産業学群のみ）……▶ 宮城大学の学びを俯瞰する
大学での学びを概観し，宮城大学と3学群のミッション，学修内容等を理解することで，４年間の学修と卒業後の姿をイメージします。

⑥大学での学び入門（事業構想学群・食産業学群のみ）……▶ 学び続ける姿勢を養う
大学での学び方を身につけることを目的に，学ぶことの意義を考え，また学ぶために必要な学修方法について学びます。

⑦キャリアデザインⅠ（事業構想学群・食産業学群のみ）……▶ 自分は何者かを問う
学類選択や卒業後の進路を見据えて、「自分は何者で、これからどのような道を進んでいきたいのか」を考えます。過去の自分に肯定的な意味付けをし、未来の自分をデザインする方法を学びます。

フレッシュマンコアでは上記基幹科目のほかにも、必修科目として次の科目を配置しています。

・English Reading SkillsⅠ／English Reading SkillsⅡ／English for Academic PurposesⅠ
・English Self-ExpressionⅠ／English Self-ExpressionⅡ／English Self-ExpressionⅢ
・データサイエンス入門
・情報化社会と技術

2 学びの基盤となる４つの分野

基盤教育の中では、フレッシュマンコアで生涯にわたって学び続ける力を修得するとともに、学類毎の専門科目を理解するための基礎知識や基本的な考え方について、以下の４つの科目分野を基盤として学んでいきます。

（1）グローバルコミュニケーション分野（GC）

English for Academic PurposesⅡ	Extensive Listening	Practical English
中国語Ⅰ	中国語Ⅱ	
韓国語Ⅰ	韓国語Ⅱ	
ベトナム語Ⅰ	ベトナム語Ⅱ	
Global StudiesⅠ	Global StudiesⅡ	Intercultural Communication

（2）ソーシャルサイエンス分野（SS）

日本の歴史と文化	世界の歴史と文化	東北の歴史と文化
現代社会と哲学	人と宗教	心理学
現代社会の諸相	憲法	社会と経済

（3）ナチュラルサイエンス分野（NS）

数理科学	生命科学	環境科学入門
地球と宇宙	数学概論	物理概論
化学概論	生物概論	基礎統計学

（4）アートサイエンス分野（AS）

音楽	美術	健康科学
スポーツ科学	スポーツ実技	体を動かす楽しみ
アートサイエンス概論（※）	総合芸術（※）	

※看護学群では開講しない科目なので、看護学群の学生が履修を希望する場合は、他学群・他学類履修制度により履修してください。

3 留学生対象科目

留学生の皆さんには、下表の基盤教育科目が必修となります。

科目	看護学群	事業構想学群	食産業学群
宮城大学の知の体系	開講なし	○	○
大学での学び入門	開講なし	○	○
社会の中で生きる	○	○	○
キャリアデザインⅠ	開講なし	○	○
スタートアップ・セミナー	○	○	○
アカデミック・セミナー	○	○	○
地域フィールドワーク	○	○	○
情報化社会と技術	○	○	○
データサイエンス入門	○	○	○
＊ English Reading SkillsⅠ	６科目から２単位（２科目）以上選択	６科目から２単位（２科目）以上選択	６科目から２単位（２科目）以上選択
＊ English Self-ExpressionⅠ			
＊ English Reading SkillsⅡ			
＊ English Self-ExpressionⅡ			
＊ English for Academic PurposesⅠ			
＊ English Self-ExpressionⅢ			
化学概論	選択	選択	○
生物概論	選択	選択	○
基礎統計学	選択	○	○
日本語Ⅰ	○	○	○
日本語Ⅱ	○	○	○
日本語Ⅲ	○	○	○
日本事情Ⅰ	○	○	○
日本事情Ⅱ	○	○	○

4 教育課程の一覧

基盤教育を含む教育課程の一覧は、VI学群の章の科目配当表に記載しています。学群・学類毎に開講科目、必修・選択、分野毎の卒業要件単位が異なりますので、確認のうえ計画的に履修してください。

Ⅴ. 全学共通科目ほか

1 コミュニティ・プランナープログラムについて

(1) コミュニティ・プランナープログラムとは

地域の歴史・文化・資源を活かしたコミュニティづくりや、地域の人々と共に課題解決ができる人材の育成を目指し、宮城大学と兵庫県立大学が連携して構築・推進している教育プログラムです。このプログラムでは、地域コミュニティの現場に触れ、自らの目で見て･聞いて･体験し、学習することで、地域の人々と共に考えながら、地域本来の良さを活かした、これからのコミュニティづくりの提案を行える技能の習得を目指しています。

(2) 単位

必修科目は、コミュニティ・プランナー（CP）基盤科目である基盤教育科目の「地域フィールドワーク」1 科目 2 単位、CP 開講科目の「CP 概論および演習」「CP 実践論」「CP フィールドワーク演習」の 3 科目 6 単位。また、選択科目として、各学群既存科目である「CP 関連科目」のうち 2 領域以上から 6 科目 12 単位以上を履修します。合計 20 単位以上を履修することで卒業時に宮城大学から『コミュニティ・プランナー アソシエイト』の称号が授与されます。

〈 CP プログラム科目構成 〉

CP 基盤科目（4 科目 8 単位）+ CP 関連科目（6 科目 12 単位）= 計 20 単位以上



『コミュニティ・プランナー アソシエイト』称号 授与

<CP 概論および演習>
地域社会で活躍する専門家と連携したグループ演習により、現地調査の方法、ワークショップの運営、意見のまとめ方など、フィールドワークの基本的技能の習得を目指します。

<CP 実践論>
実践者・専門家の講義の講義やフィールドワークを通じ、事例把握による疑似体験により、CP としての知識・理解を深めます。

<CP フィールドワーク演習>
コミュニティ再生の実践的経験を通して、CP としての職能を理解しながら様々なステークホルダーとの協働手法や地域課題解決手法の習得を目指します。

（3）プログラムの考え方および特色

①GREENの視点

持続可能（サスティナブル）な地域コミュニティを構築し、維持してゆくためには、緑ある環境をベースにして、人、植物、動物、すべての生命（いのち）がつながり、関わり合うことが必要です。本プログラムでは、このような、すべての生命（いのち）のつながり、関わりを意味するものを「GREEN」と呼びます。「GREEN」は花や樹木などの植物だけでなく、「みどり色」の持つイメージそのものを指し、光り輝く緑からイメージできる生命（いのち）の輝き、人びとが集い、笑顔があふれる地域社会など、持続可能な地域社会を支える新しい視点です。

②ステークホルダーと連携したフィールドワーク

カリキュラムは主に「講義+フィールドワーク（実践）」の形式を取り、フィールドでの実践を通して講義での学びを深めていきます。また、第一線で活躍する専門家と共に学ぶことのできる実践的な科目構成となっています。自治体や企業・NPO 等の地域社会のステークホルダーと連携したフィールドワークを取り入れることで、今コミュニティから求められている企画力やファシリテーション能力、プレゼンテーションや実行力といった社会に貢献できる能力を育成します。

（4）履修方法および履修手続等

①履修方法

通常の履修登録と同様に学務管理システムで行ってください。履修登録の際は、別冊で配布される「履修登録の手引き」をよく確認してください。

②履修登録単位数の上限と卒業要件単位への参入

各学群の履修登録単位数には上限があるので、各学群の履修規程を確認してください。なお、卒業要件単位に入らない科目は、履修登録単位の上限からも除外されます。

看護学群は、基盤教育科目「地域フィールドワーク」のみ卒業要件単位として認められ、前期の履修登録単位数に含まれます。

事業構想学群および食産業学群は、基盤教育科目「地域フィールドワーク」と「CP 概論および演習」が卒業要件単位として認められ、前期の履修登録単位数に含まれます。「CP 実践論」「CP フィールドワーク演習」は卒業要件単位には入りません（地域創成学類を除く）。

③CP 関連科目

CP 関連科目については、各学群学類で開講している既設科目の履修となります。他学群にて開講している科目を履修する場合には、学群学類毎に履修要件が異なります。詳しくは「宮城大学の学生による他学群・他学類授業科目の履修等実施要綱」を確認してください。

※CP 関連科目は、各シラバス・時間割どおりに開講されますので、別キャンパスの科目を履修する場合はキャンパス間の移動時間等に注意して履修登録を行ってください。

別表　CP関連科目（2領域以上、6科目12単位以上を修得）

領域	科目名	開講年次	単位数	開講学類	科目名	開講年次	単位数	開講学類
グリーンケア	人間発達学	1前	2	看護	行政学	3前	2	地域創生
	人間関係論	1後	2	看護	社会的共通資本	3前	2	地域創生
	ライフステージ看護学概論Ⅰ（看護学群の学生のみ履修可）	1後	2	看護	地理情報分析	3前	2	地域創生
	ライフステージ看護学概論Ⅱ（全学群の学生履修可）	2前	2	看護	地域交流論	3後	2	地域創生
	災害活動論	1後	2	看護	コミュニティ創造	3後	2	地域創生
	臨床心理学	1後	2	看護	地方自治	3後	2	地域創生
	地域看護学概論	2後	2	看護	地域福祉政策	4前	2	地域創生
	地域政策概論	2前	2	地域創生	栄養科学	3前	2	食資源開発
	地域調査法	2前	2	地域創生	食品の安全性管理	3後	2	食資源開発
	地域資源論	2後	2	地域創生	動物福祉論	3後	2	食資源開発
	地域社会学	2後	2	地域創生	ライフステージ栄養学	4前	2	フードマネジメント
	地域分析学	2後	2	地域創生	フードコミュニケーション	4前	2	食資源開発 フードマネジメント
	社会調査法	2後	2	地域創生				計25科目
グリーンデザイン	地域社会・産業とデザイン	1後	2	地域創生 価値創造デザイン 事業プランニング	災害の科学（水）	3前	2	地域創生 価値創造デザイン
	地域政策概論	2前	2	地域創生	災害の科学（土）	3後	2	地域創生 価値創造デザイン
	地域調査法	2前	2	地域創生	地域交流論	3後	2	地域創生
	地域資源論	2後	2	地域創生	コミュニティ創造	3後	2	地域創生
	地域社会学	2後	2	地域創生	地方自治	3後	2	地域創生
	地域分析学	2後	2	地域創生	景観工学	3後	2	地域創生 価値創造デザイン
	社会調査法	2後	2	地域創生	都市計画	3後	2	地域創生 価値創造デザイン
	国土・地域計画	2後	2	地域創生 価値創造デザイン	交通計画	3後	2	地域創生 価値創造デザイン
	伝統と文化	2後	2	価値創造デザイン	地区・街区計画	4前	2	地域創生 価値創造デザイン
	行政学	3前	2	地域創生	地域環境政策	4前	2	地域創生
	社会的共通資本	3前	2	地域創生	防災計画	4前	2	地域創生
	地理情報分析	3前	2	地域創生	環境科学	2後	2	食資源開発 フードマネジメント
	風土・伝統デザイン	3前	2	価値創造デザイン	食品の安全性管理	3後	2	食資源開発
	水資源利用学	3前	2	地域創生 食資源開発	フードコミュニケーション	4前	2	食資源開発 フードマネジメント
	都市と文化	3前	2	地域創生 価値創造デザイン				計29科目
グリーンビジネス	公衆衛生学	1後	2	看護	社会起業論	4前	2	地域創生
	地域活性化とビジネス	1後	2	地域創生	食料・農業・農村政策	3前	2	食資源開発 フードマネジメント
	地域政策概論	2前	2	地域創生	植物性食材生産学Ⅱ（露地園芸）	3前	2	食資源開発
	地域調査法	2前	2	地域創生	植物性食材生産学Ⅲ（施設園芸）	3前	2	食資源開発
	地域資源論	2後	2	地域創生	畜産食品学	2･3後	2	食資源開発
	地域社会学	2後	2	地域創生	ローカルフードシステム論	3前	2	フードマネジメント
	地域分析学	2後	2	地域創生	食産業政策論	3後	2	フードマネジメント
	社会調査法	2後	2	地域創生	食品経済・政策論演習	3後	2	フードマネジメント
	行政学	3前	2	地域創生	食材生産経営学	3後	2	フードマネジメント
	社会的共通資本	3前	2	地域創生	食資源開発学	3後	2	食資源開発
	地理情報分析	3前	2	地域創生	食品マーケティング論	3後	2	食資源開発
	地域交流論	3後	2	地域創生	植物性食材生産実験実習Ⅱ	3後	2	食資源開発
	コミュニティ創造	3後	2	地域創生	付加価値動物性食材生産法	3後	2	食資源開発
	地方自治	3後	2	地域創生	食品の安全性管理	3後	2	食資源開発
	地域産業政策	4前	2	地域創生	フードコミュニケーション	4前	2	食資源開発 フードマネジメント
								計30科目

2 学外研修・グローバルインターンシップ

(1) 学外研修・グローバルインターンシップとは

国内･海外を問わず学外における一定期間の計画的なプログラムに参加し、一定の成果を得られた場合、全学共通科目の「学外研修」の単位を修得することができます。また、主に海外における一定期間の研修を通して、グローバル人材として必要なスキル、社会で必要なコミュニケーション能力を身につけ、一定の成果を得られた場合、全学共通科目の「グローバルインターンシップ」の単位を修得することができます。このうち、海外で行うものの一つとして「リアル・アジア」があります。

①リアル・アジアとは

宮城大学では、平成 24 年度、「就活ゼロ、就職 100%」を目指し、アジア経験を持つ学生を輩出していきたいと考え、ベトナムでの研修プログラム「リアル･アジア」を企画しました。本学学生のグローバル素養（異文化理解力･コミュニケーション能力･タフさ等）を高め、個々人の持つ新しい可能性を掘り起こし、これからの勉強や就職に向けた目標と自信を獲得してもらいます。

②学外研修（リアル・アジア）

学外研修（リアルアジア短期研修）では、訪問国に関する基礎知識を学んだ後、本学教職員同行の下で、約 2 週間にわたり博物館・美術館をはじめ、大学・企業（工場等）・行政機関・NPO/NGO、そして商店・市場・農村などを訪問し、さまざまな観点から訪問国の事例研究を進め､その国やそこに生活する人々への理解を深め､「リアル」なアジアを経験するとともに, グローバル素養を身に付けます。

③グローバルインターンシップ（リアル・アジア）

グローバルインターンシップでは、日本企業ベトナム現地法人、NGO 等で 2 ～ 4 週間のインターンシップをします。アジアで活躍する企業や機関での研修を通して、アジアと日本を捉えなおし、両者をつなぐ意義とその実際を学びます。これからの社会人として必要とされるグローバル素養（適応力・行動力・国際感覚・メンタルタフネス）を修得することが目的です。

(2) 科目の履修方法

学外研修、グローバルインターンシップの2科目とも、学内選考のうえで参加が決定します。そのため、学務管理システムでの履修登録は行わず、国際交流・留学生センター等から案内される募集手続きに従って応募します。詳細は国際交流・留学生センター等で配布する募集要項を確認してください。なお、看護学群は実習期間により参加できる日程が限られる場合がありますので、実習日程を確認の上で応募してください。

3 学都仙台単位互換ネットワーク　単位互換制度

(1) 学都仙台単位互換ネットワーク　単位互換制度とは

学都仙台単位互換ネットワークは、この制度に参加する大学、短期大学、高等専門学校に在籍する学生が、他の参加校の授業科目を履修し、そこで取得した単位を在籍する大学等の単位として認定する制度です。この制度による授業科目の履修には、原則として､授業料はかかりません（放送大学の授業料を除く｡実習費用等が別途かかる場合があります）｡履修できる授業科目（シラバス）や受講者数、その他の条件等については、受入れ大学が決定し、募集要項に定めています。

提供される科目や出願期間は大学ごとに毎年変わりますので、詳細は、学都仙台コンソーシアム単位互換ネットワークのウェブサイト（http://www.gakuto-sendai.jp/for_s/index.html）を確認してください。

(2) 単位互換制度の申請方法

①受講手続きの流れ

	募集要項･出願期間の確認	→	履修申請（出願）	→	履修許可･受講開始	→	成績連絡	→	卒業要件単位参入
前期	前年度3月		3月～4月		4月		10月		翌年度4月
後期	前年度3月		8月（大学により4月）		10月		3月		翌年度4月
手続きの流れ	各大学から提供科目･募集要項提示 ウェブサイトにて公開開始		ウェブサイトに出願期間提示 各大学の出願期間の1週間前までに単位互換願書を宮城大学事務部あてに提出		宮城大学事務部から履修の案内を受け取りしだい､授業の受講開始		宮城大学事務部より成績連絡		既修得単位認定の申請を宮城大学事務部に提出

②出願資格

宮城大学に在籍する正規学生で、申請し許可を受けた方が対象です。ただし、科目によっては、女子学生に限る場合や「○年次生以上」という受講の制限を設けている場合がありますので、科目の履修を希望する大学等の募集要項を確認してください。なお、相手先の大学によっては、最初の受講前に事前連絡が必要になる場合がありますので、各受入れ大学のウェブサイト、募集要項で確認してください。

③出願期間

出願期間は、前期科目及び通年科目は4月中旬、後期科目は9月中旬で、相手先の大学によって違います。希望する大学の出願締め切りの1週間前までに、宮城大学事務部へ④の願書を提出してください。なお、相手先の大学によっては、前期・後期科目ともに4月を出願期限としている場合があります。

④出願方法

履修を希望する場合は、「単位互換学生（特別聴講学生）願書」（共通様式または各校指定様式）に必要事項を記入して、宮城大学事務部へ提出してください。その他必要書類があれば窓口でお知らせします。

⑤授業の履修

出願があってから、相手先の大学で審査が行われ、受講の可否が決定します。受講が決定したら宮城大学事務部よりお知らせしますので、相手先の大学で授業を履修することが出来ます。

⑥成績連絡

履修した授業の成績は、宮城大学を通じてお知らせします。相手先大学から連絡があり次第、掲示やメールでお知らせしますので、宮城大学事務部窓口で受け取ってください。

⑦単位の認定及び卒業要件単位への参入

⑥で成績が通知された場合、既定の範囲内で単位の認定及び卒業要件単位に算入することができます。[詳細は、「宮城大学他学群・他学類履修及び他大学等履修に関する実施要綱」に定めていますので、学内ウェブサイトで確認して下さい。]

Ⅵ. 食産業学群

1 食産業学群について

（1）食資源開発学類のカリキュラムの特徴

食資源開発学類では、1 年次に「フレッシュマンコア」を中心とした基盤教育科目を学びます。1年次終了時に自分の進む学類が決まり、2 年次からは、学類の専門基礎科目を学びます。2 年次後期からは、動物生産科学コースか植物生産科学コースのいずれかを選択し、コース毎に専門科目を学びます。3 年次には、より専門性の高い科目を実験、実習を通じて学びます。4 年次には、卒業研究を中心に実践的な課題に取り組み、食材の生産法や品質の評価法がわかり、優位性のある新たな食材や生産法を提案・実践できるようになります。

食資源開発学類での4年間の学び

1年次　「フレッシュマンコア」を中心とした基盤教育科目を学ぶ

■ 大学での学びに必要な基礎的なスキルを身に付ける。

1年次末　学類を選択・決定

2年次　専門基礎科目を学び食材の生産や加工を体験

前期
■ 代表的な食材の生産や加工について学び体験する
■ 食産業をビジネスとサイエンスの両面から理解するための基礎学力を身に付ける

開講科目例
●食材生産概論　●食材生産・加工実習Ⅰ・Ⅱ
●有機化学　●経済経営学基礎

前期末　コースを選択

後期　専門科目を学び始める

動物生産科学コース

開講科目例
●動物生理学　●動物生産基礎実験Ⅰ
●畜産食品学

■ 生物学的基礎理論を食材の生産と結びつけて学ぶ

植物生産科学コース

開講科目例
●植物生理学　●植物生産基礎実験Ⅰ
●農産食品学

3年次　より専門性の高い科目を座学と実験・実習を通して学ぶ

開講科目例
●動物性食材生産学Ⅰ・Ⅱ
●循環型動物生産論
●食資源開発学
●付加価値動物性食材生産法
●動物性食材生産実験実習Ⅰ・Ⅱ

■ 食材の生産法や経営を学ぶ
■ 品質の評価法や優位性付与の理論を学ぶ

開講科目例
●植物性食材生産学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
●アグロテクノロジー
●食資源開発学
●付加価値植物性食材生産法
●植物性食材生産実験実習Ⅰ・Ⅱ

これらの科目も両コースで学べます
開講科目例
●水棲動物学　●水棲植物学
●水産資源学　●水産利用学

4年次　より専門性の高い科目を座学と実験・実習を通して学ぶ

開講科目例
●卒業研究　●食と未来

卒業論文発表会＝4年間の学びの集大成

■ 食材の生産法や品質の評価法がわかり、優位性のある新たな食材や生産法を提案・実践できる人材をめざす

(2) フードマネジメント学類のカリキュラムの特徴

フードマネジメント学類では、1 年次に「フレッシュマンコア」を中心とした基盤教育科目を学びます。1年次終了時に自分の進む学類が決まり、2 年次からは、学類の専門基礎科目を学びます。3年次からは、フードビジネスコースかフードサイエンスコースのいずれかを選択し、コース毎により専門性の高い科目を学びます。4 年次には、卒業研究を中心に実践的な課題に取り組みます。

フードマネジメント学類での４年間の学び

1年次　「フレッシュマンコア」を中心とした基盤教育科目を学ぶ

■ 大学での学びに必要な基礎的なスキルを身に付ける。

1年次末　学類を選択・決定

2年次　専門基礎科目、専門科目を学ぶ

■ 各コースに共通の科目を学ぶ
■ 食産業をビジネスとサイエンスの両面から理解するための基礎学力を身につける

開講科目例
●微生物学　●食品企業経営論　●食材生産加工実習Ⅰ・Ⅱ
●食品化学　●食品マーケティング論

2年次末　コースを選択

3年次　コースごとに、より専門性の高い科目を学ぶ

フードビジネスコース

■ フードビジネスの専門知識と
フードサイエンスの基礎知識を学ぶ
■食品産業や食品企業を健全に発展させる
ビジネスリーダーをめざす

フードサイエンスコース

■フードサイエンスの専門知識と
フードビジネスの基礎知識を学ぶ
■食品産業において新たな技術開発を
リードする技術者をめざす

開講科目例　●食料・農業・農村政策　●栄養科学　●食品衛生学

開講科目例
●食料経済論
●食品企業経営戦略論
●フードサービス産業論
●ローカルフードシステム論
●フードシステム調査演習

相互に選択可能
相互に選択可能

開講科目例
●発酵食品・醸造学
●食品工学
●食品貯蔵・流通技術論
●調理科学
●食品栄養・機能学実験

4年次　卒業研究を中心に，実践的な課題に取り組む機会が増える

【開講科目例】　●食と未来　●卒業研究

卒業論文発表会＝4年間の学びの集大成

(3) 食産業学群、食資源開発学類・フードマネジメント学類の教育目標

	ディプロマポリシー	カリキュラムポリシー
学群共通	食産業学群では、以下の要件を満たした学生に学士（食産業学）の学位を授与する。	科学的素養に基づきながら地域資源を活用し国際的視点で食産業の課題を自発的に解決して、未来を開拓できる能力を養う体系的カリキュラムを設置する。 地域に根ざす食資源の高付加価値化や生産方法に関する知識・技術を修得するため、「食資源開発学類」を設置し、動物系食資源を対象とする「動物生産科学」、植物系食資源を対象とする「植物生産科学」の２つの履修コースを定める。 フードシステムの構築に必要なサイエンスとビジネスの両面の知識・技術を修得するため、「フードマネジメント学類」を設置し、主にビジネスを対象とする「フードビジネス」、主にサイエンスを対象にする「フードサイエンス」の ２ つの履修コースを定める。
知識・技術	食産業に関する専門学問分野の知識を持ち、その分野を体系的に理解し、分野特有の技術を活用できる。	基盤教育での基礎科学の修得に基づき、広範な食産業に関する自然科学分野および社会科学分野での知識と技術の修得ができるような基礎から応用に至る体系的な教育を行う。 食資源開発学類では、動物生産科学、植物生産科学の ２ つの視点から、生物学の基礎的知識、実験や食材生産の基礎的理論等を学修する講義、これらを実践できる実験・実習・演習を専門基礎科目として設置する。さらに専門科目では、動物系および植物系の食資源開発や付加価値生産、また水圏食資源開発に活用できる先端的な知識等を学修する講義、先端的知識を実践できる実験・実習・演習を設置する。 フードマネジメント学類では、経営やマーケティング等のフードビジネス、食品化学や食品工学等のフードサイエンスを学修する講義、これらを実践できる実験･実習・演習を専門基礎科目として設置する。さらに専門科目では、戦略的に経営するための関連科目、食材を開発するための生産・管理関連科目を学修する講義、食産業界の問題解決を実践できる実験・実習・演習を設置する。
思考判断力	食産業に関わる問題を論理的な分析に基づいて考察することができる。	食資源開発やフードマネジメントの分野で必要な統計的な解析法やエビデンスベースの分析理論等を学修できる専門基礎科目を設置する。 専門科目では、専門基礎科目で学修した分析理論を実際に活用し、食産業における課題の設定、解決法の立案、結果の考察、次の課題の抽出、といった一連のスキームを取り入れた実験・実習・演習を実施する。
表現	食産業に関わる事実とそれに対する思考･判断の過程を的確に表現できる。	食資源開発やフードシステムに関する論理的分析や考察について、文章や口頭で的確に表現する機会を積極的に取り入れた基礎専門科目を設置する。 専門科目や卒業研究では、食産業の現状を正確に説明し、持続的発展に寄与できる分析や考察を提示する能力を養うために、ディスカッションやプレゼンテーション、論文作成等を取り入れた成果発表型のプログラムを実施する。
主体性	社会の持続的発展のための自己の役割を理解した上で、食産業に関わる課題を自ら設定し、その課題解決に主体的に取り組むことができる。	食産業の幅広い視野を持てるよう多様性に富む科目を用意し、将来目標を設定した上で履修科目選択の自由度を認めて学生の自発的な学修を尊重する。 実験・実習・演習の専門科目や卒業研究では、自らの知識と行動により課題発見と課題解決ができるよう探求的プログラムを実施する。 キャリア教育では、食産業の現場において、自分の将来像をデザインできるようにするためのプログラムを取り入れる。
協働性	課題発見や課題解決に、他者の意見を求めたり、他者と協働しながら行動できる。	相手を理解する上で不可欠な傾聴力、把握力、柔軟性等の円滑なコミュニケーション法を学修するため、個別や少人数のグループで行う手法を実験・実習・演習の専門基礎科目や専門科目、卒業研究に取り入れる。 実験･実習･演習の専門科目、卒業研究等において、教員やグループメンバーとのディスカッションや緊密なコミュニケーションを取り入れたプログラムを実施する。 実社会における協働能力を養うために、学外でのインターンシップを取り入れたキャリア教育を実施する。

（4）食産業学群、食資源開発学類・フードマネジメント学類のカリキュラムマップ

食産業学群のディプロマポリシー （③専門基礎科目・④専門科目のディプロマポリシー）				
（1）知識・技術	（2）思考力・判断力	（3）表現	（4）主体性	（5）協働性
食産業に関する専門学問分野の知識を持ち、その分野を体系的に理解し、分野特有の技術を活用できる。	食産業に関わる問題を論理的な分析に基づいて考察することができる。	食産業に関わる事実とそれに対する思考・判断の過程を的確に表現できる。	社会の持続的発展のための自己の役割を理解した上で、食産業に関わる課題を自ら設定し、その課題解決に主体的に取り組むことができる。	課題発見や課題解決に、他者の意見を求めたり、他者と協働しながら行動できる。

基盤教育科目のディプロマポリシー				
（1）知識・技術	（2）知識・技術	（3）知識・技術	（4）知識・技術	（5）知識・技術
諸領域の学問分野における基本的知識を持ち、各学問分野に特有の考え方を理解し、その考え方を様々な場面で適用できる技術を持つ。	諸領域の学問分野における基本的知識を持ち、各学問分野に特有の考え方を理解し、その考え方を様々な場面で適用できる技術を持つ。	諸領域の学問分野における基本的知識を持ち、各学問分野に特有の考え方を理解し、その考え方を様々な場面で適用できる技術を持つ。	諸領域の学問分野における基本的知識を持ち、各学問分野に特有の考え方を理解し、その考え方を様々な場面で適用できる技術を持つ。	諸領域の学問分野における基本的知識を持ち、各学問分野に特有の考え方を理解し、その考え方を様々な場面で適用できる技術を持つ。

4年次	④	食資源		水産増殖学					と未来			
			企業倫理							卒業研究		
			食感性科学									
		フード		ライフステージ栄養学					と未来			
			フードサービス産業論演習		フードサービス産業論演習							
			フードシステム解析演習	食産業・政策史		食産業・政策史						
			企業倫理	水産資源学								
			食感性科学									
	③										フードコミュニケーション	
3年次	④	食資源	生物生産環境学	生物生産環境学実験								
			食材生産経営学	動物性食材生産実験実習Ⅰ								
			アグロテクノロジー	動物生産基礎実験Ⅱ			アグロテクノロジー					
			植物病理学	動物性食材生産実験実習Ⅱ								
			植物遺伝育種学	付加価値動物性食材生産実験実習								
			植物性食材生産学Ⅰ（食用作物）	分子生物学								
			植物性食材生産学Ⅱ（露地園芸）	栄養科学								
			植物性食材生産学Ⅲ（施設園芸）	分子遺伝学				食品マーケティング論				
			付加価値植物性食材生産法									
			食資源開発学	食産業政策論								
			動物繁殖学	食品の安全性管理								
			動物遺伝育種学	食品機能開発学								
			動物性食材生産学Ⅰ（乳・卵）	水資源利用学								
			動物性食材生産学Ⅱ（肉）	発酵食品・醸造学								
			動物栄養・飼料学	動物発生工学								
			付加価値動物性食材生産法	動物福祉論								
			循環型動物生産論	水棲動物学								
			植物性食材生産実験実習Ⅰ	水棲植物学								
			植物生産基礎実験Ⅱ	水産利用学								
			植物性食材生産実験実習Ⅱ	水産資源学								
			付加価値植物性食材生産実験実習			卒業研究サーベイ				卒業研究サーベイ		
		フード	食品衛生学	食品衛生学実験						食品衛生学実験		
			栄養科学	食品機能開発学								
			食品の安全性管理	食品貯蔵・流通技術論								
				発酵食品・醸造学							品質保証システム演習	
			食料経済論	食品栄養・機能学実験								食品栄養・機能学実験
			食品流通・情報論	食品化学実験								
			食品企業経営戦略論	ローカルフードシステム論								
				グローバルフードシステム論	フードシステム調査演習				フードシステム調査演習		フードシステム調査演習	
			食産業政策論	調理科学								
			フードサービス産業論	食材生産経営学		食材生産経営学						
				食品物理化学			食品マーケティング演習		食品マーケティング演習		食品マーケティング演習	
			食品企業経営戦略演習	分子生物学	食品企業経営戦略演習		食品企業経営戦略演習		食品企業経営戦略演習			
					食品経済・政策論演習		食品経済・政策論演習		食品経済・政策論演習		食品経済・政策論演習	
			食品工学									
	③		食料・農業・農村政策			インターンシップⅡ	食料・農業・農村政策		食料・農業・農村政策	インターンシップⅡ	食料・農業・農村政策	インターンシップⅡ
			キャリア開発Ⅱ	キャリア開発Ⅲ		キャリア開発Ⅲ	キャリア開発Ⅱ	キャリア開発Ⅲ	キャリア開発Ⅱ	キャリア開発Ⅲ	キャリア開発Ⅱ	キャリア開発Ⅲ
	②				コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習		コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習				コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習	
2年次	④	食資源	食材生産概論	動物生理学								
			農産食品学	動物衛生学								
			植物生理学	植物生産基礎実験Ⅰ								
			土壌肥料学 ※DP対応未定	動物生産基礎実験Ⅰ			土壌肥料学 ※DP対応未定		土壌肥料学 ※DP対応未定		土壌肥料学 ※DP対応未定	
					畜産食品学							
		フード	食材生産概論	農産食品学								
			食品企業経営論	畜産食品学								
			食品マーケティング論	水産食品学								
			食品化学									
	③		有機化学			インターンシップⅠ		インターンシップⅠ		インターンシップⅠ		インターンシップⅠ
				微生物学	経済経営学基礎							
			科学基礎実験								科学基礎実験	
			食材生産・加工実習Ⅰ	生化学								
				専門基礎実験	応用情報処理							
				食材生産・加工実習Ⅱ								
					キャリアデザインⅡ	キャリア開発Ⅰ	キャリアデザインⅡ	キャリア開発Ⅰ	キャリアデザインⅡ	キャリア開発Ⅰ		
	②		コミュニティ・プランナー概論及び演習								コミュニティ・プランナー概論及び演習	
	①				English for Academic Purposes Ⅰ							
							English Self-Expression Ⅲ					
									English for Academic Purposes Ⅱ			
					Extensive Listening							
							Practical English					
1年次	④		食産業学概論									
				健康科学					宮城大学の知の体系			
				スポーツ科学					大学での学び入門			
					社会の中で生きる					スポーツ実技		
											地域フィールドワーク	体を動かす楽しみ
				現代社会と哲学		現代社会と哲学	キャリアデザインⅠ					
				人と宗教					スタートアップ・セミナー			
				心理学			アカデミック・セミナー					
			情報化社会と技術	現代社会の諸相								
			データサイエンス入門	憲法	データサイエンス入門							
			English Reading Skills Ⅰ	社会と経済								
				数理科学			English Self-Expression Ⅰ					
			English Reading Skills Ⅱ	生命科学								
				環境科学入門			English Self-Expression Ⅱ					
	①		中国語Ⅰ	地球と宇宙								
			中国語Ⅱ	数学概論								
			韓国語Ⅰ	物理概論								
			韓国語Ⅱ	化学概論								
			ベトナム語Ⅰ	生物概論								
			ベトナム語Ⅱ	基礎統計学								
			Global Studies Ⅰ					日本語Ⅰ				
			Global Studies Ⅱ					日本語Ⅱ				
			Interecultural Communication					日本語Ⅲ				日本語Ⅲ
								日本語Ⅳ	全学自由ゼミ			
			日本の歴史と文化	日本事情Ⅰ								
			世界の歴史と文化	日本事情Ⅱ								
			東北の歴史と文化	アートサイエンス概論		アートサイエンス概論		アートサイエンス概論		アートサイエンス概論		
			音楽		音楽		音楽		音楽			
			美術		美術		美術		美術			

①基盤教育科目（フレッシュマンコア）1年次前期～2年次後期に開講

②全学共通科目2年次前期～3年次前期に開講

③専門基礎科目 1年次後期～4年次前期に開講

④専門科目2年次前期～4年次後期に開講

1 食産業学群について

2 関連資格

（5）食資源開発学類の科目配当表

		1年前期		1年後期		2年前期		2年後期		3年前期		3年後期		4年前期		4年後期		卒業要件	
		必	科目名	単位	必 科目名	単位	必 科目名	単位	必 科目名	単位	必 科目名	単位	必 科目名	単位	必 科目名	単位	必 科目名	単位		
基盤教育科目	フレッシュマンコア	○	スタートアップ・セミナー	2	○ アカデミック・セミナー	2													(必修)21単位	必修を含めて45単位以上修得 /94単位
		○	社会の中で生きる	1	○ キャリアデザインⅠ	1														
		○	大学での学び入門	1															※留学生は、English Self-Expression Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、English Reading Skills Ⅰ・Ⅱ、English for Academic Purposes Ⅰの中から2単位以上選択必修	
		○	宮城大学の知の体系	2																
		○	地域フィールドワーク	2																
		○	データサイエンス入門	2	○ 情報化社会と技術	2														
		○	English Self-Expression Ⅰ	1	○ English Self-Expression Ⅱ	1	○ English Self-Expression Ⅲ	1												
		○	English Reading Skills Ⅰ	1	○ English Reading Skills Ⅱ	1	○ English for Academic Purposes Ⅰ	1												
	グローバルコミュニケーション		Global Studies Ⅰ	2	Intercultural Communication	2	Practical English	1	English for Academic Purposes Ⅱ	1									(選択) 3単位以上/15単位	
			韓国語Ⅰ	1	Global Studies Ⅱ	2			Extensive Listening	1										
			中国語Ⅰ	1	韓国語Ⅱ	1														
			ベトナム語Ⅰ（集中）	1	中国語Ⅱ	1														
					ベトナム語Ⅰ（集中）	1														
	ソーシャルサイエンス		世界の歴史と文化	2	日本の歴史と文化	2													(必修) 6単位	
			東北の歴史と文化	2																
			現代社会の諸相	2	現代社会と哲学	2													(選択) 10単位以上/30単位	
			憲法	2	人と宗教	2														
			社会と経済	2	心理学	2														
	ナチュラルサイエンス		環境科学入門	2	数理科学	2														
			地球と宇宙	2	生命科学	2														
		○	化学概論	2	数学概論	2														
		○	生物概論	2	物理概論	2														
					○ 基礎統計学	2														
	アートサイエンス		美術	2	音楽	2													（選択）2単位以上/11単位	
					健康科学	2														
			体を動かす楽しみ	1	スポーツ科学	1														
			アートサイエンス概論	1	スポーツ実技	1														
					総合芸術（集中）	1														
	ゼミ		全学自由ゼミ（集中）	1																
	留学	○	日本語Ⅰ	1	○ 日本語Ⅱ	1	○ 日本語Ⅲ	1	日本語Ⅳ	1									(必修) 7単位 ※留学生のみ履修可能	
		○	日本事情Ⅰ	2	○ 日本事情Ⅱ	2														
全学共通科目							コミュニティ・プランナー概論及び演習	2	コミュニティ・プランナー実践論	2	コミュニティ・プランナー	2							CP実践論・CPFW演習は卒業要件単位に含まない	
							グローバルインターンシップ（集中）	2	学外研修（集中）	2	フィールドワーク演習									

食資源開発学類　卒業要件

基盤教育科目から45単位，専門基礎科目から30単位，専門科目から44単位（※），卒業研究から8単位を履修し合計で127単位履修すること。
履修科目の登録の上限：49単位（年間）ただし、1年次における基盤教育科目の履修登録単位数の上限は35単位

(※)専門科目は以下①～③に従い履修すること。
①共通科目から必修10単位，実験・実習科目から選択4単位を履修すること。
②植物生産科学コースは植物系食資源開発科目から必修20単位，動物生産科学コースは動物系食資源開発科目から必修20単位を履修すること。
③専門関連科目から選択10単位履修するか，水圏生物生産科目から選択8単位以上と専門関連科目の組み合わせで10単位を履修すること。
全学共通科目のコミュニティ・プランナー概論及び演習、グローバルインターンシップ、学外研修は基盤教育科目に参入可能。

学類共通	専門基礎科目		★専門基礎科目																	
		○	食産業学概論	2	○ 有機化学	2	○ 微生物学	2	○ 食料・農業・農村政策	2			○ フードコミュニケーション	2			(必修)30単位	必修を含めて30単位以上修得 /32単位
					○ 経済経営学基礎	2	○ 環境科学	2									(選択)卒業要件に算入可能 / 2単位	
							○ 生化学	2										
					○ 科学基礎実験	1	○ 専門基礎実験	1										
					○ 食材生産・加工実習Ⅰ	1	○ 食材生産・加工実習Ⅱ	1										
					○ 応用統計学	2												
					○ 応用情報処理	2												
					○ キャリアデザインⅡ	1	○ キャリア開発Ⅰ	1	○ キャリア開発Ⅱ	1	○ キャリア開発Ⅲ	1						
					○ インターンシップⅠ	2			インターンシップⅡ	2								

植物生産科学コース	専門科目		★共通科目																	
		○	食材生産概論	2					○ 生物生産環境学	2			○ 食材生産経営学	2			○ 食と未来	2	(必修)10単位	必修を含めて44単位以上修得 /70単位
													○ アグロテクノロジー	2						
					★植物性食資源開発科目															
					○ 農産食品学	2	○ 植物病理学	2											(必修)20単位	
					○ 植物生理学	2	○ 植物遺伝育種学	2												
					○ 土壌肥料学	2	○ 植物性食材生産学Ⅰ（食用作物）	2					○ 付加価値植物性食材生産法	2						
							○ 植物性食材生産学Ⅱ（露地園芸）	2					○ 食資源開発学	2						
							○ 植物性食材生産学Ⅲ（施設園芸）	2												
													★動物性食資源開発科目						専門関連科目として卒業要件に算入可能/2単位	
													※畜産食品学	2						
					★実験・実習科目														(必修) 3単位	
					○ 植物生産基礎実験Ⅰ	1	植物生産基礎実験Ⅱ	1			○ 付加価値植物性食材生産実験実習	1						(選択) 1単位以上/ 3単位	
							○ 植物性食材生産実験実習Ⅰ	1			植物性食材生産実験実習Ⅱ	1								
							生物生産環境学実験	1												
							★専門関連科目												専門関連科目から(選択)10単位以上/22単位 または 水圏生物生産科目から(選択) 8単位以上/10単位 および専門関連科目の組合せで10単位以上	
							分子生物学	2			分子遺伝学	2	企業倫理	2						
							栄養科学	2			食品マーケティング論	2	食感性科学	2						
											食産業政策論	2								
											食品の安全性管理	2								
											食品機能開発学	2								
							水資源利用学	2			発酵食品・醸造学	2								
							★水圏生物生産科目													
							水棲動物学	2			水産利用学	2	水産増殖学	2						
							水棲植物学	2			水産資源学	2								
	卒業研究										○ 卒業研究サーベイ	2	○ 卒業研究	6					(必修)8単位	
	専門科目（卒業要件外）				★動物性食資源開発科目														卒業要件外	
					動物生理学	2	動物繁殖学	2												
					動物衛生学	2	動物遺伝育種学	2												
							動物性食材生産学Ⅰ(乳・卵)	2			付加価値動物性食材生産法	2								
							動物性食材生産学Ⅱ(肉)	2			循環型動物生産論	2								
							動物栄養・飼料学	2												
					★実験・実習科目															
					動物生産基礎実験Ⅰ	1	動物生産基礎実験Ⅱ	1			付加価値動物性食材生産実験実習	1								
							動物性食材生産実験実習Ⅰ	1			動物性食材生産実験実習Ⅱ	1								
							★専門関連科目													
							動物発生工学	2			動物福祉論	1								

動物生産科学コース	専門科目		★共通科目																	
		○	食材生産概論	2					○ 生物生産環境学	2			○ 食材生産経営学	2			○ 食と未来	2	(必修)10単位	必修を含めて44単位以上修得 /69単位
													○ アグロテクノロジー	2						
					★動物性食資源開発科目															
					○ ※畜産食品学	2	○ 動物繁殖学	2											(必修)20単位	
					○ 動物生理学	2	○ 動物遺伝育種学	2												
					○ 動物衛生学	2	○ 動物性食材生産学Ⅰ(乳・卵)	2			○ 付加価値動物性食材生産法	2								
							○ 動物性食材生産学Ⅱ(肉)	2			○ 循環型動物生産論	2								
							○ 動物栄養・飼料学	2												
											★植物性食資源開発科目								専門関連科目として卒業要件に算入可能/2単位	
											※農産食品学	2								
					★実験・実習科目														(必修) 3単位	
					○ 動物生産基礎実験Ⅰ	1	◆生物生産環境学実験	1											(選択) 1単位以上/ 3単位	
							動物生産基礎実験Ⅱ	1			○ 付加価値動物性食材生産実験実習	1								
							○ 動物性食材生産実験実習Ⅰ	1			動物性食材生産実験実習Ⅱ	1								
							★専門関連科目												専門関連科目から(選択)10単位以上/21単位 または 水圏生物生産科目から(選択) 8単位以上/10単位 および専門関連科目の組合せで10単位以上	
							分子生物学	2			分子遺伝学	2	企業倫理	2						
							栄養科学	2			食品マーケティング論	2	食感性科学	2						
											食産業政策論	2								
											食品の安全性管理	2								
											食品機能開発学	2								
							動物発生工学	2			動物福祉論	1								
							★水圏生物生産科目													
							水棲動物学	2			水産利用学	2	水産増殖学	2						
							水棲植物学	2			水産資源学	2								
	卒業研究										○ 卒業研究サーベイ	2	○ 卒業研究	6					(必修) 8単位	
	専門科目（卒業要件外）				★植物性食資源開発科目														卒業要件外	
					植物生理学	2	植物病理学	2												
					土壌肥料学	2	植物遺伝育種学	2												
							植物性食材生産学Ⅰ（食用作物）	2			付加価値植物性食材生産法	2								
							植物性食材生産学Ⅱ（露地園芸）	2			食資源開発学	2								
							植物性食材生産学Ⅲ（施設園芸）	2												
					★実験・実習科目															
					植物生産基礎実験Ⅰ	1	植物生産基礎実験Ⅱ	1			○ 付加価値植物性食材生産実験実習	1								
							植物性食材生産実験実習Ⅰ	1			植物性食材生産実験実習Ⅱ	1								
							★専門関連科目													
							水資源利用学	2			発酵食品・醸造学	2								

専門科目履修方法

①共通科目10単位を履修する
②植物性食資源開発科目20単位を履修する
③実験・実習科目から必修3単位，選択1単位の合計4単位を履修する。
④専門関連科目及び水圏生物生産科目から10単位を選択して履修する
（水圏生物生産科目を卒業要件に参入する場合は水圏生物生産科目群から8単位以上修得することが条件）

専門科目履修方法

①共通科目10単位を履修する
②動物性食資源開発科目20単位を履修する
③実験・実習科目から必修3単位，選択1単位の合計4単位を履修する。
④専門関連科目及び水圏生物生産科目から10単位を選択して履修する
（水圏生物生産科目を卒業要件に参入する場合は水圏生物生産科目群から8単位以上修得することが条件）

必修を含めて127単位以上修得 /230単位

(6) フードマネジメント学類の科目配当表

		1年前期 必	科目名	単位	1年後期 必	科目名	単位	2年前期 必	科目名	単位	2年後期 必	科目名	単位	3年前期 必	科目名	単位	3年後期 必	科目名	単位	4年前期 必	科目名	単位	4年後期 必	科目名	単位	卒業要件	
基盤教育科目	フレッシュマンコア	○	スタートアップ・セミナー	2	○	アカデミック・セミナー	2																			(必修)21 単位	必修を含めて 45 単位以上修得
		○	社会の中で生きる	1	○	キャリアデザインⅠ	1																			※留学生は、English Self-Expression Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、English Reading Skills Ⅰ・Ⅱ、English for Academic Purposes Ⅰの中から 2 単位以上選択必修	
		○	大学での学び入門	1																							
		○	宮城大学の知の体系	2																							
		○	地域フィールドワーク	2																							
		○	データサイエンス入門	2	○	情報化社会と技術	2																				
		○	English Self-Expression Ⅰ	1	○	English Self-Expression Ⅱ	1	○	English Self-Expression Ⅲ	1																	
		○	English Reading Skills Ⅰ	1	○	English Reading Skills Ⅱ	1	○	English for Academic Purposes Ⅰ	1																	
	コミュニケーション グローバル					Intercultural Communication	2		Practical English	1		English for Academic Purposes Ⅱ	1													(選択) 3 単位以上 /15 単位	
			Global Studies Ⅰ	2		Global Studies Ⅱ	2					Extensive Listening	1														
			韓国語Ⅰ	1		韓国語Ⅱ	1																				
			中国語Ⅰ	1		中国語Ⅱ	1																				
			ベトナム語Ⅱ(集中)	1		ベトナム語Ⅰ(集中)	1																				
	ソーシャルサイエンス		世界の歴史と文化	2		日本の歴史と文化	2																			(必修) 6 単位	
			東北の歴史と文化	2																						(選択) 10 単位以上 /30 単位	
			現代社会の諸相	2		現代社会と哲学	2																				
			憲法	2		人と宗教	2																				
			社会と経済	2		心理学	2																				
	ナチュラルサイエンス		環境科学入門	2		数理科学	2																				
			地球と宇宙	2		生命科学	2																				
		○	化学概論	2		数学概論	2																				
		○	生物概論	2		物理概論	2																				
					○	基礎統計学	2																				
	アートサイエンス		美術	2		音楽	2																			(選択)2 単位以上 /11 単位	
						健康科学	2																				
			体を動かす楽しみ	1		スポーツ科学	1																				
			アートサイエンス概論	1		スポーツ実技	1																				
						総合芸術(集中)	1																				
	ゼミ		全学自由ゼミ(集中)	1																							
	留学	○	日本語Ⅰ	1	○	日本語Ⅱ	1	○	日本語Ⅲ	1		日本語Ⅳ	1													(必修) 7 単位 ※留学生のみ履修可能	
		○	日本事情Ⅰ	2	○	日本事情Ⅱ	2																				
全学共通科目									コミュニティ・プランナー概論及び演習	2		コミュニティ・プランナー実践論	2		コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習	2									CP 実践論・CPFW 演習は卒業要件単位に含まない	
									グローバルインターンシップ(集中)	2		学外研修(集中)	2														

フードマネジメント学類卒業要件

基盤教育科目から 45 単位, 専門基礎科目から 30 単位, 専門科目から 44 単位(※),
卒業研究から 8 単位を履修し合計で 127 単位履修すること。
履修科目の登録の上限：49 単位(年間)
ただし、1 年次における基盤教育科目の履修登録単位数の上限は 35 単位
(※) 専門科目の共通科目 19 単位は全員必修とする。
フードビジネスコースは食産業経営科目から必修 11 単位, 選択 3 単位の合計 14 単位
専門関連科目から選択 11 単位を履修すること。
フードサイエンスコースは食生産・管理科学科目から選択 2 単位, 必修 11 単位の合計 13 単位
専門関連科目から選択 12 単位を履修すること。
全学共通科目のコミュニティ・プランナー概論及び演習、グローバルインターンシップ、
学外研修は基盤教育科目に参入可能。

学類共通

専門基礎科目	★専門基礎科目																							(必修)30 単位	必修を含めて 30 単位以上修得	
	○	食産業学概論	2	○	有機化学	2	○	微生物学	2	○	食料・農業・農村政策	2				○	フードコミュニケーション	2							
				○	経済経営学基礎	2	○	環境科学	2																	
							○	生化学	2																	
				○	科学基礎実験	1	○	専門基礎実験	1															(選択) 卒業要件単位に算入可能 / 2 単位		
				○	食材生産・加工実習Ⅰ	1	○	食材生産・加工実習Ⅱ	1																	
				○	応用統計学	2																				
				○	応用情報処理	2																				
				○	キャリアデザインⅡ	1	○	キャリア開発Ⅰ	1	○	キャリア開発Ⅱ	1	○	キャリア開発Ⅲ	1											
				○	インターンシップⅠ	2					インターンシップⅡ	2														

フードビジネスコース

専門科目履修方法

①共通科目 19 単位を履修する
②食産業経営科目から必修 11 単位,
選択 3 単位の合計 14 単位を履修する
③食生産・管理科学科目または
専門関連科目から選択 11 単位を履修する。

専門科目	★共通科目																							(必修)19 単位	必修を含めて 44 単位以上修得 /74 単位	
	○	食材生産概論	2	○	食品企業経営論	2	○	食品衛生学	2	○	食品の安全性管理	2				○	食と未来	2							
				○	食品マーケティング論	2	○	栄養科学	2	○	品質保証システム演習	1													
				○	食品化学	2																				
				○	農産食品学	2																				
	★食産業経営科目																							(必修)11 単位		
							○	食料経済論	2	○	食産業政策論	2		フードサービス産業論演習	1										
							○	食品流通・情報論	2	○	フードサービス産業論	2		フードシステム解析演習	1									(選択) 3 単位以上 / 5 単位		
							○	食品企業経営戦略論	2		食品マーケティング演習	1														
							○	フードシステム調査演習	1		食品企業経営戦略演習	1														
											食品経済・政策論演習	1														
	★食生産・管理科学科目																							(選択)11 単位以上 /39 単位		
					畜産食品学	2		食品貯蔵・流通技術論	2		食品機能開発学	2														
					水産食品学	2		食品衛生学実験	1		食品工学	2														
											発酵食品・醸造学	2														
											食品栄養・機能学実験	1														
											食品化学実験	1														
	★専門関連科目																									
							ローカルフードシステム論	2		グローバルフードシステム論	2		企業倫理	2												
							食品物理化学	2		調理科学	2		食感性科学	2												
							分子生物学	2					ライフステージ栄養学	2												
													解剖・生理学	2												
											食材生産経営学	2		食産業・政策史	2											
														水産資源学	2											
卒業研究																○	卒業研究サーベイ	2	○	卒業研究	6				(必修) 8 単位	

フードサイエンスコース

専門科目履修方法

①共通科目 19 単位を履修する
②食生産・管理科学科目から必修 11 単位,
選択 2 単位の合計 13 単位を履修する
③食産業経営科目または専門関連科目
から選択 12 単位を履修する。

専門科目	★共通科目																							(必修)19 単位	必修を含めて 44 単位以上修得 /74 単位	
	○	食材生産概論	2	○	食品企業経営論	2	○	食品衛生学	2	○	食品の安全性管理	2				○	食と未来	2							
				○	食品マーケティング論	2	○	栄養科学	2	○	品質保証システム演習	1													
				○	食品化学	2																				
				○	農産食品学	2																				
	★食生産・管理科学科目																							(必修)11 単位		
					畜産食品学	2	○	食品貯蔵・流通技術論	2	○	食品機能開発学	2													(選択) 2 単位以上 / 4 単位		
					水産食品学	2	○	食品衛生学実験	1	○	食品工学	2														
										○	発酵食品・醸造学	2														
										○	食品栄養・機能学実験	1														
										○	食品化学実験	1														
	★食産業経営科目																									
							食料経済論	2		食産業政策論	2		フードサービス産業論演習	1												
							食品流通・情報論	2		フードサービス産業論	2		フードシステム解析演習	1												
							食品企業経営戦略論	2		食品マーケティング演習	1															
							フードシステム調査演習	1		食品企業経営戦略演習	1															
										食品経済・政策論演習	1															
	★専門関連科目																							(選択)12 単位以上 /40 単位		
							ローカルフードシステム論	2		グローバルフードシステム論	2		企業倫理	2												
							食品物理化学	2		調理科学	2		食感性科学	2												
							分子生物学	2					ライフステージ栄養学	2												
													解剖・生理学	2												
											食材生産経営学	2		食産業・政策史	2											
														水産資源学	2											
卒業研究																○	卒業研究サーベイ	2	○	卒業研究	6				(必修)8 単位	

必修を含めて 127 単位以上修得
/208 単位

1 食産業学群について
2 関連資格
2 関連資格

2 関連資格

食産業学群カリキュラム（平成 29 年度以降入学生向け）では、卒業または特定の科目の修得によって学習分野に関連する下記の資格が取得できる予定です。

詳細については決定次第、別途お知らせします。

	資格名	認定	概要
食資源開発学類	家畜人工授精師（牛）	農林水産省	畜産農家だけでなく、農協や牧場職員、大学や研究機関の家畜担当者が必要とする国家資格です。牛の人工授精又は受精卵移植を行う場合に必要となります。
	食の6次産業化プロデューサー	一般社団法人 食農共創プロデューサーズ	生産（1 次産業）、加工（2 次産業）、流通・販売・サービス（3 次産業）の一体化や連携により、地域の農林水産物を活用した加工品の開発、消費者への直接販売、レストランの展開など、食分野で新たなビジネスを創出する人材です。
フードマネジメント学類	食品衛生監視員	厚生労働省	食品衛生上の問題を防ぐことを目的に、専門の検査や指導を行います。通称「食品Gメン」とも呼ばれ、国や自治体の公務員として職務にあたります。所定科目の単位を取得し、国や自治体の関連機関に就業した場合、申請の上で取得可能です。
	食品衛生管理者		食品の製造や加工を行う施設で、衛生管理を行う責任者のことです。工場や加工場で、食品衛生法上の違反がないかどうか、従業員の衛生管理ができているかどうかをチェックする業務です。所定科目の単位を取得し、食品関連企業等に就職し、衛生管理の職に就き、申請の上で「食品衛生管理者」になることができます。
	HACCP管理者	日本食品保蔵科学会	HACCP システムとは、原料の入荷から製造・出荷までのすべての工程において、あらかじめ危害を予測し、その危害を防止（予防、消滅、許容レベルまでの減少）するための重要管理点（CCP）を特定して、そのポイントを継続的に監視・記録（モニタリング）し、異常が認められたらすぐに対策を取り解決することができるシステムです。HACCP 管理者は、そのシステムを管理することができます。
	食の6次産業化プロデューサー	一般社団法人 食農共創プロデューサーズ	生産（1 次産業）、加工（2 次産業）、流通・販売・サービス（3 次産業）の一体化や連携により、地域の農林水産物を活用した加工品の開発、消費者への直接販売、レストランの展開など、食分野で新たなビジネスを創出する人材です。

1
食産業学群について
2
関連資格

1
食産業学群について
2
関連資格